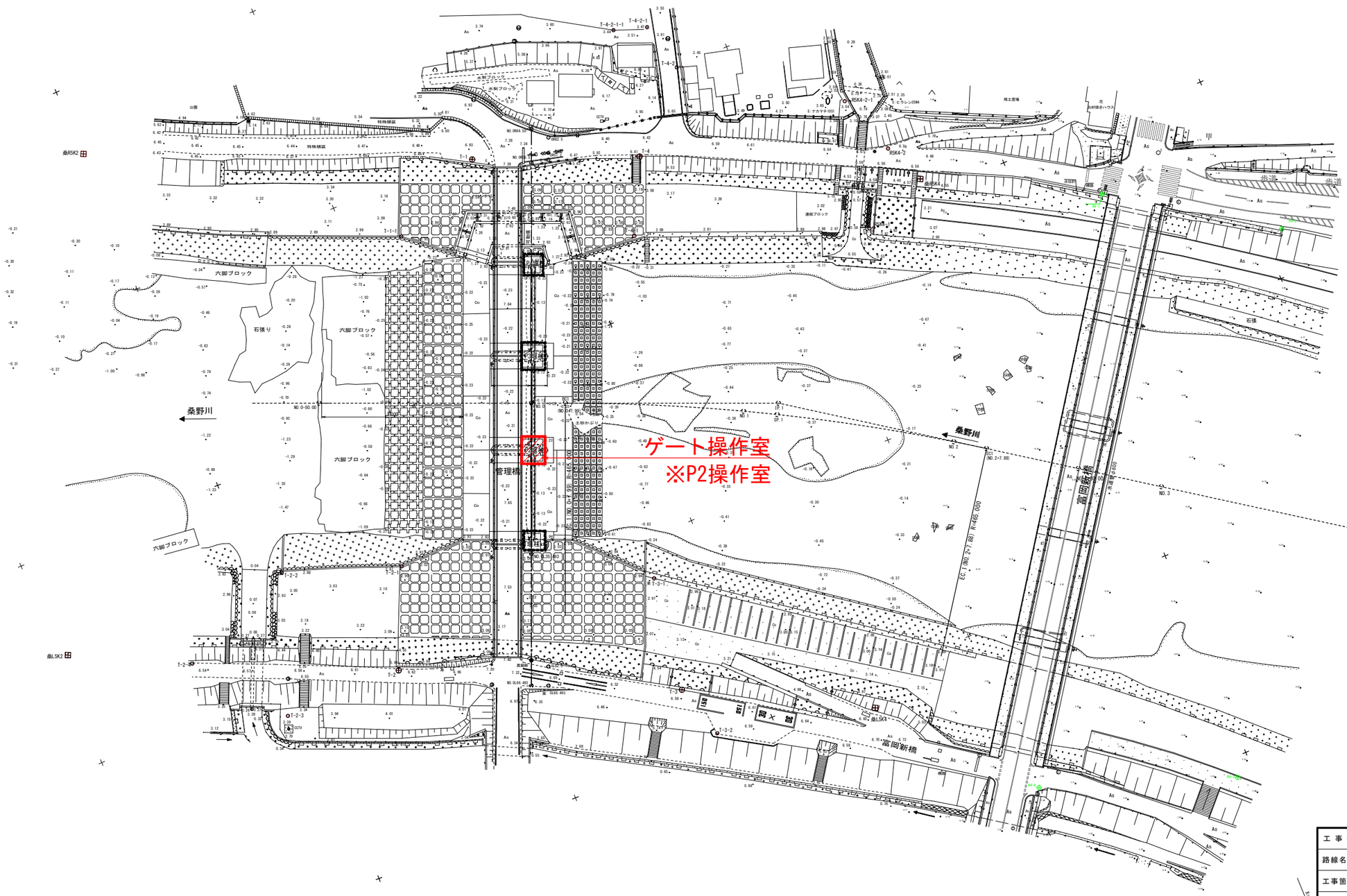
一般計画平面図

S=1:500



工事名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（囲い手摺仮設）（巻手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	一般計画平面図		
縮尺	S=1:500	図面番号	1
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

ゲート操作室建築工事特記仕様書 の堰　工事設計図

令和　　年　　月（全　　枚）

特 記 仕 様 書

Ⅰ　工事概要

1. 工事場所　徳島県阿南市富岡町

2. 敷地面積

3. 工事種目　1.建物
　1)堰上屋　鉄骨造　平家建て

1.設備
　1)電気設備

4. 工事範囲
※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち　　の工事範囲は下記表のとおりとする。ただし，その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

2 仮設工事	工事範囲すべて
~~3 土工事~~	
~~4 地業工事~~	
~~5 鉄筋工事~~	
~~6 コンクリート工事~~	
7 鉄骨工事	
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	
9 防水工事	
~~10 石工事~~	
~~11 タイル工事~~	
~~12 木工事~~	
13 屋根及びとい工事	
14 金属工事	
15 左官工事	
16 建具工事	
~~17 カーテンウォール工事~~	
18 塗装工事	
~~19 内装工事~~	
~~20 ユニット及びその他の工事~~	

Ⅱ　建築工事仕様

1. 標準仕様
　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は，国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。

2. 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は，電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお，電気設備工事の特記仕様書は（　／　）図，機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図による。

3. 特記仕様書の表記
(1) 項目は，番号に ○ 印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は，⊙ 印の付いたものを適用する。
　⊙ 印の付かない場合は，※印の付いたものを適用する。
　⊙ 印と ◎ 印の付いた場合は，共に適用する。
(3) 特記事項に記載の（　　）内表示番号は，標準仕様書の当該項目，当該図又は当該表を示す。
(4) G 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に定める判断の基準を満たす物品を示す。

章	項　目	特　記　事　項
○ 一般共通事項	①適用基準等	図面，本特記仕様書，標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。 ・建築物解体工事共通仕様書（平成24年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部 ・ 本設計図書における「標準詳細図」とは，次の基準を指す。 ・建築工事標準詳細図（平成28年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課 その他 ・営繕工事写真撮影要領（平成24年版）・同解説　工事写真の撮り方　建築編 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・営繕工事写真撮影要領　平成28年版　工事写真撮影ガイドブック 建築工事編（地業工事）及び解体工事編　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
	2 工事実績情報の登録	(1.1.4) ※適用する
	③適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ⊙風圧力 風速（Vo= 36 m/s） 地表面粗度区分（・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ　） ・積雪荷重 建設省告示第1455号における区域　別表（　）
	4 電気保安技術者	(1.3.3) ※適用する
	⑤施工条件	(1.3.5) 下記以外は現場説明書による。 ・工事用車両の駐車場所　※図示　・ ・資機材置場　※図示　・ ・建設発生土仮置場　※図示　・ ・　※図示　・
	⑥発生材の処理等	(1.3.11) ※現場説明書による　・構外搬出適切処理　・
	⑦環境への配慮	(1.4.1) （1）建築物内部に使用する材料等は，設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に，次の①から④を満たすものとする。 ① 合板，木質系フローリング，構造用パネル，集成材，単板積層材，ＭＤＦ，パーティクルボード，その他の木質建材，ユリア樹脂板，壁紙，接着剤，保温材，緩衝材，断熱材，塗料，仕上塗材は，アセドアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で，設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は，トルエン，キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は，可塑性（フタル酸ジｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具，書架，実験台，その他の什器類は，ホルムアルデヒド，アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか，発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 （2）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において，「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し，同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第20条の７第１項に定める第一種，第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第20条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第20条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	⑧材料の品質等	(1.4.2) （1）本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能の他，通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 （2）備考欄に商品名が記載された材料は，当該商品又は同等品を使用するものとし，同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 （3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については，材料製造所の指定する工法とする。 （4）本工事に使用する材料のうち，（5）に指定する材料の製造業者等は，次の①から⑥の事項を満たすものとし，その証明となる資料（外部機関［（一社）公共建築協会が発行する「建築材料・設備機材等品質評価事業」］の評価書の写し等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし，あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 ①品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可，認可，認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり，その信頼性があること。 ⑥販売，保守等の営業体制を整えていること。 （5）製造業者等に関する資料の提出を求める材料 床型枠用鋼製デッキプレート，鉄骨柱下無収縮モルタル，無収縮グラウト材，押出し成形セメント板，成形伸縮目地材，乾式保護材，陶磁器質タイル，既調合モルタル，既調合目地材，ルーフドレン，吸水調整材，アルミニウム製建具，樹脂製建具，鋼製建具，鋼製軽量建具，ステンレス製建具，錠前類，クローザ類，自動扉機構，自閉式上吊り引戸機構，重量シャッター，軽量シャッター，オーバーヘッドドア，ガラス，防水剤，現場発泡断熱材，フリーアクセスフロア，可動間仕切，移動間仕切，トイレブース，煙突用成形ライニング材，天井点検口，床点検口，グレーチング，屋上緑化システム，トップライト，エポキシ樹脂，外装タイル張り用有機系接着剤，ポリマーセメントモルタル，

⑨技能士　(1.5.2)

適用工事種類	技能検定作業
仮設工事	⊙とび作業
鉄筋工事	・鉄筋組立て作業
コンクリート工事	・型枠工事作業　・コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	⊙構造物鉄工作業　・とび作業
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	⊙コンクリートブロック工事作業 ・エーエルシーパネル工事作業
防水工事	・アスファルト防水工事作業　・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業　・セメント系防水工事作業 ⊙シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	・石張り作業
タイル工事	・タイル張り作業
木工事	・大工工事作業
屋根及びとい工事	⊙内外装板金作業　・スレート工事作業
金属工事	⊙鋼製下地工事作業　・内外装板金作業
左官工事	・左官作業
建具工事	⊙ビル用サッシ施工作業　・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業
カーテンウォール工事	・金属製カーテンウォール工事作業　・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	⊙建築塗装作業
内装工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業　・壁装作業
排水工事	・建築配管作業
舗装工事	・溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業
植栽工事	・造園工事作業

10 化学物質の濃度測定　(1.5.9)
（1）屋内空気中のホルムアルデヒド，トルエン，キシレン，エチルベンゼン，スチレンの濃度を測定し，測定結果を監督員に報告する。
（2）測定対象室及び測定箇所は仕上げ表による。
（3）測定は，パッシブ型採取機器により行う。
（4）測定方法及び測定結果の報告は，現場説明書による。

⑪ 完成時の提出図書　(1.7.1～3)(表1.7.1)
※完成図書　提出部数　※（A3版　原図及び複写図(2部)）
　ＣＡＤデータ　※提出する
※保全に関する資料　提出部数　※2部

⑫ 完成写真
工事完成時に次の写真を撮影し，監督職員に提出する。

分類・規格		撮影箇所数	提出部数	画素数・画質等
・カラー	※キャビネ版	外部（　）内部（　）	※2　・	※500万画素以上
		外観正面　（※1　・　）	※5　・	
	・			
・カラー四切木製パネル		外部（　）内部（　）	※2　・	
・カラー半切木製パネル		外部（　）内部（　）	※2　・	
・電子データ		外部（　）内部（　）	※2　・	※500万画素以上

電子データは，RGB(フルカラー)，JPEG形最高画像とし，CD-Rにて提出する。
・建築写真の撮影実績があるもので，監督職員が承諾する撮影業者
・任意

⑬ 他工事又は他工種との取合い　工事区分表による。これにより難い場合は監督職員と協議する。

⑭ 設計ＧＬ　※図示　・（　　）

② 仮設工事

①足場その他　(2.2.4)
・「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては，同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

②監督職員事務所　(2.3.1)
※設けない
　規模及び仕上げの程度は現場説明書による。

③工事用水　構内既存の施設　※利用できる（※有償）

④工事用電力　構内既存の施設　※利用できる（※有償）

3 土工事

1 埋戻し及び盛土　(3.2.3)
埋戻し及び盛土の種別
・Ａ種　適用場所（　　）
・Ｂ種　適用場所（　　）
・Ｃ種　適用場所（　　）土質（　）　受渡場所（　）
・Ｄ種　適用場所（　　）

2 建設発生土の処理　(3.2.5)
・構外搬出適切処理
・構内指定場所に堆積　・構内指定場所に敷均し

3 山留めの存置　(3.3.3)
存置範囲（※図示　・　）

4 地業工事

1 支持地盤
・杭基礎　(4.3.4,5)(4.5.4,5)
支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端位置含む）
・図示による（　　）　・
・直接基礎
支持地盤の位置及び種類（基礎底部の位置含む）
・図示による（　　）　・
試験掘り（根切り底の状態の確認等）　(3.2.1)
・行わない
・行う
位置等　・図示による（　　）　・
・杭の載荷試験　(4.2.3)
試験の位置，方法等
・図示による（　　）　・
・地盤の載荷試験　(4.2.4)
試験の位置，方法等
・図示による（　　）　・

2 既製コンクリート杭地業
種類　(4.3.2)
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490　・
・
寸法，継手，性能等（種別：種類，性能及び曲げ強度区分）　(4.2.2)(4.3.2)(4.3.3)

		種類	コンクリート強度(N/mm²)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本　杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭先端部形状　(4.3.2)
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・
施工方法　(4.3.3～5)
・打込み工法　（・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー　・　　）
ブレボーリングの併用
・行わない
・行う
掘削深さ及び径
・図示による（　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ
試験杭　(4.2.2)(4.3.3)
試験杭の位置
・図示による（　　）　・
打込杭の推定支持力の算定方法
・図示による（　　）　・
・セメントミルク工法　(4.2.2)(4.3.4)
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ
・
杭の支持地盤への根入れ深さ
・
杭の精度
・水平方向の位置ずれ
・
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　　）　・
・特定埋込杭工法　(4.2.2)(4.3.5)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α，β，γが以下の値を採用できる工法
α=（　），β=（　），γ=（　）
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中掘り拡大根固め工法
・
杭の精度　(4.3.5)
・水平方向の位置ずれ
・
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　　）　・
杭継手工法　(4.3.2)(4.3.6)(7.2.5)
・アーク溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(a)(b)による
・図示による（　　）
・
・無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法
※審査（評定等）を受けた工法　・
検査
※審査（評定等）により定められた項目　・
施工
※審査（評定等）された施工管理基準による　・
杭頭の処理　(4.3.7)
・処理しない
・処理する
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・図示による（　　）　・　(4.3.7)
杭頭の中詰め材料
・

工 事 名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手確保型）（著手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(1/9)		
縮　　尺	－	図面番号	2-1
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

4 地業工事〈続き〉

3 鋼杭地業

種類の記号 (4.4.2)
・SKK400　・SKK490　・

寸法，継手等 (4.2.2)(4.4.2)

		種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本　杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

杭先端部形状 (4.4.2)
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・

先端部の補強 (4.4.2)
・標準仕様書 図4.4.1，表4.4.2による　・

先端部の補強（補強バンド等）及びその他付属品の材質
・

施工方法 (4.4.1)
・打込み工法　（・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー　・　　）(4.2.2)(4.4.3)
プレボーリングの併用
・行わない
・行う
掘削深さ及び径
・図示による（　　）　・
杭の精度
・水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　　）　・
打込杭推定支持力の算定
・図示による（　　）　・
・特定埋込杭工法 (4.4.4)
・平13国交告第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・平13国交告第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α，β，γが下記の値を採用できる工法
α=（　），β=（　），γ=（　）
工法
・中掘り拡大根固め工法
・
杭の精度 (4.4.3)
・水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　　）　・
杭の現場継手 (4.4.5)
・溶接継手
形状
・JIS A 5525による　・
溶接材料 (4.4.2)
・標仕 7.2.5(a)(b)による
・図示による（　　）
・
・無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法
※審査（評定又は大臣認定）を受けた工法
検査
※審査（評定又は大臣認定）により定められた項目
施工
※審査（評定又は大臣認定）された施工管理基準による
杭頭の処理 (4.3.7)(4.4.6)
・処理しない
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による（　　）　・
杭頭の中詰め材料 (4.3.7)(4.4.6)
・

4 場所打ちコンクリート杭地業

掘削工法 (4.5.1)(4.5.4)
・アースドリル工法（安定液　※使用する　・使用しない）
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張り　・行う　・行わない）
併用する工法 (4.5.1)(4.5.5)
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）
・

寸法等 (4.2.2)

	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(mm)	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭						
本　杭						

鉄筋の種類 (4.5.3)

種類の記号	呼び径(mm)	備　考
・SD295A		
・SD345		
・		
・		

帯筋 (4.5.3)
・図示による（　　）
・

鉄筋かごの補強 (4.5.3)
・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)，1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で，かつ，1節につき3箇所以上入れ，リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは，補強材の幅とする。
・

鉄筋の最小かぶり厚さ (4.5.3)
・

鉄筋の重ね継手長さ，主筋の基礎底盤への定着長さ (4.5.3～4.5.5)
・図示による（　　）　・
セメントの種類 (4.5.3)
・高炉セメントB種　・
コンクリートの種別 (4.5.3)
・A種　・B種
コンクリートの設計基準強度(Fc) (4.5.3)
・図示による（　　）　・
構造体強度補正値(S) (4.5.3)
・3N/mm²
・図示による（　　）
・審査（評定又は大臣認定）された内容による
試験杭 (4.2.2)(4.5.4)(4.5.5)
試験杭の位置
・図示による（　　）　・
孔壁測定 (4.5.4)(4.5.5)
測定箇所
・試験杭（　　）箇所及び本杭（　　）箇所　・
杭の精度 (4.5.4)(4.5.5)
水平方向の位置ずれ
・

5 砂利地業

材料 (4.6.2)
・再生クラッシャラン G　・切込砂利及び切込砕石
砂利厚さ (4.6.3)
※60mm　・50
適用箇所
・基礎梁下，土間コンクリート下，土に接するスラブ下
・図示による（　　）　・

6 捨コンクリート地業

捨コンクリートの厚さ (4.6.4)
※50mm　・
施工範囲 (4.6.4)(6.14.1)
・基礎梁下，土に接するスラブ下
・図示による（　　）　・
設計基準強度 (4.6.4)(6.14.1)
※18N/mm²　・
スランプ (4.6.4)(6.14.1)
※15cm又は18cm　・

7 床下防湿層

材料 (4.6.2)
・ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
施工範囲 (4.6.5)
・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下
・

5 鉄筋工事

1 鉄筋

鉄筋の種類 (5.2.1)

種類の記号	呼び径(mm)	備　考
・ SD295A		
・ SD345		
・		
・		

2 溶接金網

形状等 (5.2.2)

種　類	種類の記号	網目の形状，寸法，鉄線の径(mm)	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

3 鉄筋の継手

継手方法等 (5.3.4)(5.5.2)(5.5.3)

部位	継手方法			呼び径(mm)
柱，梁の主筋	・ガス圧接	・機械式継手	・溶接継手	
耐力壁の鉄筋	・重ね継手	・		
その他の鉄筋（　　）	・重ね継手	・		

耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(a)(2)）
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(a)(3)）
継手位置図 (5.3.4)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）5.1，6.1，7.1，7.3，8.1）
・

4 鉄筋の定着長さ

鉄筋の定着長さ (5.3.4)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(b)）
・

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ (5.3.5)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）表4.1）
・
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
・無し
・有り　適用箇所（　　）
主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する

軽量コンクリートで土に接する部分
・無し
・有り　適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　　）mm
・
耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
・無し
・有り　適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　　）mm
・

鉄筋相互のあき（機械式継手及び溶接継手を除く） (5.3.5)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）
・

6 機械式継手

使用箇所
・図示による（　　）　・
H12建告第1463号に適合する性能 (5.5.2)
・
機械式継手の種類及び工法　（　　） (5.5.2)
鉄筋相互のあき (5.3.5)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）
・

品質の確認方法 (5.5.2)
・図示による（　　）
不良となった継手の修正方法等 (5.5.2)
・図示による（　　）

7 溶接継手

使用箇所
・図示による（　　）　・
H12建告第1463号に適合する性能 (5.5.3)
・
鉄筋相互のあき (5.3.5)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）
・

継手の工法 (5.5.3)
・図示による（　　）
品質の確認方法 (5.5.3)
・図示による（　　）
不良となった継手の修正方法等 (5.5.3)
・図示による（　　）

8 各部配筋

各部配筋 (5.3.7)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））
・

9 圧接完了後の試験

抜取試験 (5.4.9)
※超音波探傷試験
・引張試験

6 コンクリート工事

1 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

・普通コンクリート (6.2.1～4)

設計基準強度（N/mm²）	スランプ	適用箇所
・24		
・		
・		

・軽量コンクリート (6.2.1～3)(6.10.1,2)

設計基準強度（N/mm²）	スランプ	適用箇所
・		
・		

2 コンクリートの類別

類別 (6.2.1)
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

3 セメント

種類 (6.3.1)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種　使用部位（　　）
・高炉セメントB種 G　使用部位（　　）
・フライアッシュセメントB種 G　使用部位（　　）
・

4 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
※A　・B

5 混和材料

・混和剤 (6.3.1)
混和剤の種類
※標準仕様書6.3.1(d)(ⅰ)による　・
・混和材 (6.3.1)
混和材の種類
※標準仕様書6.3.1(d)(ⅱ)による　・

6 気乾単位容積質量

・普通コンクリート (6.2.3)
・2.3t/m³ 程度　・
・軽量コンクリート (6.10.1)
・

7 軽量コンクリート

種類 (6.10.1)
・1種　・2種

適用箇所
・図示による（　　）　・

8 寒中コンクリート

適用期間 (6.11.1)
・図示による（　　）　・
・積算温度を基に定める場合 (6.11.2)
・図示による（　　）　・

9 暑中コンクリート

構造体強度補正値(S) (6.12.2)
※6N/mm²　・

10 マスコンクリート

適用箇所 (6.2.1)(6.13.1)
・図示による（　　）　・

セメントの種類 (6.13.2)
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種
・普通ポルトランドセメント
・
混和材料
・混和剤 (6.13.2)
混和剤の種類
※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤
・
スランプ (6.13.2)
※15cm　・

11 無筋コンクリート

設計基準強度 (6.14.1)
※18（N/mm）
スランプ (6.14.1)
※15cm 又は 18cm　・
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
適用箇所 (6.2.1)(6.14.1)
※標準仕様書6.14.1(e)による箇所
・図示による（　　）

12 流動化コンクリート

適用箇所 (6.2.1)(6.15.1)
・図示による（　　）

13 ひび割れ誘発目地打継目地

目地寸法 (6.6.3)(6.8.2)(9.7.3)
・標準仕様書9.7.3による　・
間隔，位置，形状 (6.8.2)
・図示による（　　）

14 コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.3)

種　別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

15 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） (6.8.2)
・
打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・

16 型枠

せき板の材料及び厚さ (6.8.3)
・合板（※12mm　・　　）G
・断熱材の兼用した型枠材の使用 (6.8.3)
・MCR工法用シート
打増し厚さ (6.8.3)
・20mm　・
打増し範囲
・図示による（　　）　・

スリーブの材種 (6.8.3)
※標準仕様書6.8.3(i)(2)(ⅰ)から(ⅳ)による　・

工事名	R7阿波 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手確保型）（落手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(2/9)		
縮尺	-	図面番号	2-2
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

⑦ 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.1)(7.1.3)

⊙ 構造特記仕様書による

② 施工管理技術者

⊙適用する (7.1.3.4)

・適用しない

③ 鋼材

材質等 (7.2.1)

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
	⊙図示による	⊙JIS規格による ・
		・JIS規格による ・
		・JIS規格による ・
		・JIS規格による ・
		・JIS規格による ・
		・JIS規格による ・

④ 高力ボルト

ボルトの区分 (7.2.2)

⊙トルシア形高力ボルト

セットの種類　※2種（S10T）　・

⊙JIS形高力ボルト

セットの種類　※2種（F10T）　・

高力ボルトの径 (7.2.2)

⊙図示による（　　）　・

ボルトの縁端距離，ボルト間隔，ゲージ等 (7.3.2)

⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－1縁端距離，ボルト間隔）

・

・すべり係数試験 (7.4.2)

試験方法等

・図示による（　　）　・

⑤ 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)

※標準仕様書7.2.3による　・

座金 (7.2.3)

⊙標準仕様書7.2.3(d)による　・

ボルトの径 (7.2.3)

⊙図示による（　　）　・

ボルトの縁端距離，ボルト間隔，ゲージ等 (7.3.2)

⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－1縁端距離，ボルト間隔）

・

⑥ 溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類 (7.2.2)

※1種（F8T相当）　・

溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 (7.2.2)

⊙図示による（　　）　・

溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 (7.3.8)

⊙大臣認定を受けた内容による

・

ボルトの縁端距離，ボルト間隔，ゲージ等 (7.3.2)

⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－1縁端距離，ボルト間隔）

・

摩擦面の処理

⊙ブラスト処理（表面粗度50μmRz 以上） (7.12.4)

・ブラスト処理以外の特別な処理方法

・図示による（　　）　・

すべり耐力等の確認方法

※すべり耐力試験

試験方法等

・図示による（　　）　・

⑦ アンカーボルト

適用 (7.2.4)(7.10.3)

・構造用アンカーボルト

・

形状，寸法

・図示による（　　）　・

⊙建方用アンカーボルト

種類　・SS400　⊙ ABM400

アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度

※標準仕様書表7.2.3による　・

形状，寸法

⊙図示による（　　）　・

ボルトの縁端距離，ボルト間隔，ゲージ等 (7.3.2)

・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－1縁端距離，ボルト間隔）

・

⑧ 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)

⊙標準仕様書 7.2.5(a)(b)による

・図示による（　　）

・

⑨ ターンバックル

種類 (7.2.6)

建築用ターンバックル胴

※割枠式　・

建築用ターンバックルボルト

※羽子板ボルト　・

ねじの呼び (7.2.6)

・図示による（　　）　・

10 デッキプレート

材質，形状及び寸法 (6.8.3)(7.2.7)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備　考
・デッキプレート単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			
・床型枠用			

鉄骨部材への溶接方法 (7.7.8)

・図示による（　　）　・

11 レール及びその付属品

形状及び寸法等 (7.2.8)

・図示による（　　）　・

⑫ 柱底均しモルタル

モルタルの種類 (7.2.9)

⊙無収縮モルタル

無収縮モルタルの材料，調合等

材料，調合等

※標準仕様書7.2.9(b)(1)から(4)による　・

・標準仕様書7.2.9(a)によるモルタル

⑬ 製作精度

※標準仕様書7.3.3及び平12建告第1464号第二号イによる (7.3.3)

H12建告第1464号第二号イ(1)(2)のただし書きによる補強は，「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

14 鉄骨の仮組

仮組を行う範囲 (7.3.10)

・図示による（　　）　・

15 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)

・図示による（　　）　・

⑯ 溶接接合

開先の形状 (7.6.4)

⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－2）

・

スカラップの形状 (7.6.7)

⊙図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1－4）

・

・エンドタブを切断する部分 (7.6.7)

適用箇所

・図示による（　　）　・

エンドタブを切断する場合の仕上げは標準仕様書7.6.7(a)(6)(ⅱ)による

溶接部の余盛り高さ

・JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」付表3［溶接］による (7.6.7)

・

低応力高サイクル疲労を受ける部位 (7.6.7)

・図示による（　　）　・

⑰ 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.11)

・工場溶接の場合

AOQL（%）

※4.0　・2.5

節	・全て	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・

・工事現場溶接の場合

AOQL（%）

※4.0　・2.5

18 錆止め塗装

塗料の種別 (7.8.3)

・鉄鋼面の錆止め塗料

屋外

※標準仕様書　表18.3.1　A種

・

屋内

・標準仕様書　表18.3.1　（　）種

・

・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料

・標準仕様書　表18.3.2　A種

・

・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る） (7.8.3)

※標準仕様書　表18.3.1　A種

・

・耐火被覆材の接着する面への塗装 (7.8.3)

・塗装を行う

適用箇所

・図示による（　　）　・

塗料の種別

・標準仕様書　表18.3.1　（　）種

・標準仕様書　表18.3.2　（　）種

・

19 耐火被覆

種類 (7.9.2～7)

種　類	材料・工法	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
	・	
	・	
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板	
	・	
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール	
	・	
・ラス張りモルタル塗り	——	

材料及び工法は，建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする

性能 (7.9.2～7)

性　能	適用箇所（部位・部分）
・30分耐火	
・1時間耐火	
・2時間耐火	
・3時間耐火	

⑳ アンカーボルト等の設置

構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状並びに寸法 (7.10.3)

・図示による（　　）　・

建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3)

種別

・A種　⊙B種　・C種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3)

※標準仕様書表7.10.2（※A種［厚さ50］　・B種［厚さ30］）による

㉑ 軽量形鋼構造

ボルト接合方法 (7.11.2)

・

⑧ コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

(8.2.2.5)

ブロックの種類

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ（mm）	モデュール呼び寸法（mm） 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロック-16				・無 ・有		
・型枠状ブロック-20				・無 ・有		
・				・無 ・有		

透水性　・普通　・防水

各部の配筋　※図示　・

2 コンクリートブロック帳壁及び塀

(8.3.2.3)

ブロックの種類

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ（mm）	モデュール呼び寸法（mm） 長さ	高さ	化粧の有無	（表8.3.1）以外の適用箇所	備考
※空洞ブロック-08				・無 ・有		
・型枠状ブロック-16				・無 ・有		
				・無 ・有		

透水性　・普通　・防水

各部の配筋　※図示　・

③ ALCパネル

(8.4.2～5)

パネルの区分	単位荷重（N/m²）	厚さ（mm）	長さ（mm）	耐火性能	表面加工	構法の種別
⊙外壁用パネル		⊙100 ・		有（1）時間	⊙平 意匠	⊙A種 ・B種
・間仕切壁用パネル		・100 ・		・有（1）時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種
・屋根用パネル		・100		有（0.5）時間	平	F種
・床用パネル		・100 ・		有（　）時間		

外壁パネルの構法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）

・適用しない

パネル幅の最小限度（mm）

※300　・300未満は図示（　　）

外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部，並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅

目地幅（mm）　・20　・

伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

4 押出成形セメント板（ECP）

(8.5.2～5)

パネルの種類	表面形状	厚さ（mm）	幅（mm）	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F	・50 ・60 ・		・A種 ・B種	
	・D	・50 ・60	600		
	・T	60			
・間仕切壁パネル	・F	・50 ・60 ・		・B種 ・C種	
	・D	・50 ・60			
	・T	60			

外壁パネルの工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）

・適用しない

パネルの相互の目地幅（mm）

長辺の目地幅　※8以上　・図示

短辺の目地幅　※15以上　・図示

出隅及び入隅のパネル接合目地は伸縮調整目地としシーリング材を充填する

目地幅（mm）　※15　・図示

原則として，欠き込み等は行わない。やむを得ず行う場合の開口の限度

・図示（　　）

9 防水工事

1 アスファルト防水

(9.2.2～5)（表9.2.3～9）

屋根保護防水

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用シート	立上り部の保護
・A-1			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ・	⊙乾式保護材 ・コンクリート押え
・A-2				
・A-3				
・B-1				
・B-2				
・B-3				
・AI-1		（材質）※JIS A 9521(建築用断熱材)による押出法ポリスチレンフォームまたはフェノールフォーム断熱材の保温板3種bA(スキン層付き)又はJIS A 9511(発泡プラスチック保温材)によるA種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板3種b(スキンあり) ・ （厚さ）・25mm　・50mm　・	※フラットセーンクロス70g/m²程度 ・	
・AI-2				
・AI-3				
・BI-1				
・BI-2				
・BI-3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.3から表9.2.8による　・

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.5から表9.2.8による　・

平場の保護コンクリートの厚さ

こて仕上げ　※水下　80mm 以上　・

床タイル張り　※水下　60mm 以上　・

立上り部の保護

⊙乾式保護材

窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として，板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。

金属複合板　：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

屋上排水溝　※図示　・

屋根露出防水

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	使用量	高日射反射率防水の適用G
・D-1			・製造所の指定による	・製造所の指定による	・
・D-2					・
・D-3					・
・D-4		（材質）※JIS A 9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に合格するもの又はJIS A 9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ （厚さ）・25mm　・			・
・DI-1					・
・DI-2					・

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の，ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

※図示　・

屋内防水

防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層　・設ける（※図示　・　　）　・設けない

防水層の下地，立上りコンクリート打放し仕上げ

※標準仕様書6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種　・

押え金物の材質及び形状寸法

※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度　・

防水層の下地のモルタル塗り

・適用する　（施工範囲　・図示　・　　）

・適用しない

2 改質アスファルトシート防水

(9.3.2.3)（表9.3.1～3）

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	防湿層	仕上塗料 種類	使用量	高日射反射率防水の適用G
・AS－T1				・製造所の指定による	・製造所の指定による	・
・AS－T2						・
・AS－T3						・
・AS－T4						・
・AS－J1						・
・ASI－T1		（材質）※JIS A 9521(建築用断熱材)による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に合格するもの又はJIS A 9511(発泡プラスチック保温材)によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ （厚さ）・25mm　・	・設ける（改質アスファルト製造所の仕様による） ・設けない			・
・ASI－J1						・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による　・

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による　・

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による　・

押え金物

※改質アスファルト製造所の仕様による　・

工事名	R7阿南　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（担い手確保型）（革手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(3/9)		
縮尺	－	図面番号	2-3
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

⑨ 防水工事 〈続き〉

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別 (9.4.2～4)（表9.4.1～3）

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材Ⓖ	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用
・S-F1				・製造所の指定による	・製造所の指定による	・
・S-F2						・
・S-M1				・製造所の指定による	・製造所の指定による	・
・S-M2						・
・S-M3						
・S1-F1			（材質）※下記に示すもののほか，JIS A 9521(建築用断熱材)による ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの又はJIS A 9511(発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ保温材)によるA種ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの ・ （厚さ）・25mm ・	・製造所の指定による	・製造所の指定による	・
・S1-F2						・
・S1-M1				・製造所の指定による	・製造所の指定による	・
・S1-M2		※発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ ・				・

屋内防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗り厚さ	・床塗り工法	・下地モルタル塗り	立上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S-C1	・	・	※標準仕様書15.2.5(b)(2)及び(3)に準ずる ・	※標準仕様書15.2.5(c)(1)に準ずる ・	※7mm以下 ・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ・

ＡＬＣパネル下地の場合機械的固定工法は適用しない
ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による ・

固定金具の材質及び形状
材質 ※防錆処理した鋼板，ステンレス鋼板及びそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの ・
厚さ(mm) ※0.4以上 ・
防水下地かＰＣコンクリート部材下地の場合の処理
目地処理 ※図示 ・
入隅部の増張り（S-F1,S1-F1,S-C1の場合） ※図示 ・
防水下地がＡＬＣパネル下地の場合の処理
目地処理 ※図示 ・
入隅部の増張り（S-C1の場合） ※図示 ・
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない
保護層の施工（屋内保護密着工法の場合）
※図示 ・

4 塗膜防水

防水層の種別 (9.5.3)（表9.5.1,2）

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	高日射反射率防水の適用
・X-1		・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による		・
・X-2		・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による		・
・Y-1	※地下外壁防水 ・				
・Y-2	※屋内防水 ・			・適用する ・適用しない	

5 ケイ酸質系塗布膜防水

防水層の種別 (9.6.1,3)（表9.6.1,2）

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-U1		・C-UP	

6 脱気装置

(9.2.3)(9.3.3)(9.5.3)

防水種別	種類	設置数量
D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J1 ASI-T1 ASI-J1	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による ・	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による ・ 個/㎡
X-1	・防水層の主材料の製造所の仕様による ・	・防水層の主材料の製造所の仕様による ・ 個/㎡

⑦シーリング

(9.7.2)（表9.7.1）
下表以外は，標準仕様書表9.7.1による
ただし，外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に，カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
ALC面	PU-2
建具廻り	PU-2

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(1)～(3)による ・

10 石工事

1 施工

(10.1.3,5)
石材の割付け ※標準仕様書10.1.3(a)(1),(2)による ・図示
粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ ・図示 ・
屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ
・行う（適用箇所 ・全て ・ ）
・行わない

2 石材等

(10.2.1,3)（表10.2.1,2）

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げ	備考
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形 ・				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法(mm)	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・300型 ・400型		

取り付用モルタル，既調合の目地モルタル，石裏面処理材，裏打ち処理材
※石材施工業者の指定する製品 ・

3 外壁湿式工法

(10.2.2,3)（10.3.2,3）
受金物 材質 ※SS400 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm
・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※流し筋工法
・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー・横筋流し工法
ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ
・
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(3)による
・図示

4 内壁空積工法

(10.2.2)（10.4.2,3）
受金物 材質 ※SS400 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm
・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※6mごと ・図示
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(3)による
・図示

5 乾式工法

(10.2.2)（10.5.2,3）（表10.2.4）
取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書10.5.2(b)(1)による ・図示
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
アンカーの材質及び径 ※ステンレス(SUS 304) M10 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
目地 目地幅(mm) ※8以上 ・
シーリング材 ・適用する（※標準仕様書9.7による ・図示）
・適用しない

6 床及び階段の石張り

(10.6.2,3)
床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ・図示 ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※床面積30㎡程度ごと，細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部
・図示

7 アーチ，上げ裏等の石張り

(10.2.2)（10.7.1,2）
取付け工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(c)による ・
引金物，だぼ，かすがい及び受金物 ※標準仕様書10.2.2(a)による ・
吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS 304)径6mm長さ80mm（加工物）
・
吊りボルト ※ステンレス(SUS 304)M10化粧ナット付き
・
・設けない
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
アンカーの材質及び径 ・SS400 M12 ・ステンレス(SUS 304) M10 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取合い部 ・図示

8 笠木，甲板等の石張り

(10.2.2)（10.7.1,3）
取付け工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(c)による ・
引金物，だぼ，かすがい及び受金物 ※標準仕様書10.2.2(a)による ・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書10.5.3(b)による ・
石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない
アンカーの材質及び径 ・ステンレス(SUS 304) M10 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

(11.1.3)（表11.1.1）
位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示

2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

(11.2.2,3,7)

施工箇所	形状寸法(mm)	再生材の適用 Ⓖ	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理
・MCR工法
・目荒し工法（高圧洗浄）
・
壁タイル張りの工法
外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
・既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして，セメント，細骨材，混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
・既製調合目地材

3 接着剤による陶磁器質タイル張り

(11.3.2～4,7)

施工箇所	形状寸法(mm)	再生材の適用 Ⓖ	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・
外装壁タイル接着材張りにおける目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
伸縮調整目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・
その他の目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・MCR工法
・目荒し工法（高圧洗浄）
・

4 陶磁器質タイル型枠先付け

(11.4.2,3)（表11.4.1）

施工箇所	形状寸法(mm)	再生材の適用 Ⓖ	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない

タイル型枠先付けの種類

種 類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種別
・タイルシート法	・小口タイル	・標準仕様書6.8.3(b)(2)
・目地桝法	・二丁掛けタイル	・金属製タイル先付け用パネル
・桟木法	大形タイル	・

工 事 名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手確保型）（等手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(4/9)		
縮 尺	－	図面番号	2-4
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

12 木工事

1 表面仕上げ

(12.1.4)

表面仕上げの種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

2 製材 G

(12.2.1)（12.5.1）(12.6.1)（12.7.1）

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※２級　・		※A種　・B種	・
			※２級　・		※A種　・B種	・

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
					※A種　・B種	・
					※A種　・B種	・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率(%)	間伐材等の適用
			※１等　・		※10以下　・	
			※１等　・		※10以下　・	

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			(　　) 造作材の場合 (※A種　・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・
			(　　) 造作材の場合 (※A種　・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・

・代用樹種を使用できない箇所（　　）

3 造作用集成材 G

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
			※1等　・2等	・
				・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			※1等　・2等	・
	化粧薄板： 芯材：				・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			・
	化粧薄板： 芯材：			・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)	間伐材等の適用
				※15以下　・	・
				※15以下　・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15以下 ・	・
	化粧薄板： 芯材：				※15以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15以下 ・	・
	化粧薄板： 芯材：				※15以下 ・	・

4 造作用単板積層材 G

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り （加工：　・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し　（等級：　　）	・適用する ・適用しない	・
		・有り （加工：　・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し　（等級：　　）	・適用する ・適用しない	・

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	含水率(%)	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し（　　）	※14以下 ・	・適用する ・適用しない	・
		・有り (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し（　　）	※14以下 ・	・適用しない	・

5 床張り用合板等

(12.2.1)

合板のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

・普通合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない	・
	・		・1類 ・2類	・	・適用する ・適用しない	・

・構造用合板 G

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級 以上 ・1級		※1類 ・特類	※C－D 以上 ・	※12 ・		・適用する ・適用しない	・適用する （　） ・適用しない	・
	・2級 ・1級		・1類 ・特類	・	・		・適用する ・適用しない	・適用する （　） ・適用しない	・

・パーティクルボード G

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ ・	※P又はM ・		※15 ・
		・			・

・構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ(mm)
	・１級　・２級　・３級　・４級	
	・１級　・２級　・３級　・４級	

6 接着剤

(12.2.2.3)

接着剤に含まれる可塑剤は，難揮発性のものとする。
ホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

7 防腐・防蟻処理

(12.3.1,2)

・防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材
適用部位：（　　）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K２　・K３　・K４
	・K２　・K３　・K４

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(3)(ⅱ)①～④による　・
	・

・ボード原料接着材への薬剤混入による防腐・防蟻処理
適用部位：（　　）

⑬ 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

(13.2.2.3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性，めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322 の屋根用ｺｲﾙ ・			・心木なし瓦棒葺 ・平葺 ・立平葺 ・幅掛葺 ・横葺 ・	

下葺材料　・アスファルトルーフィング940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない
雪止め　・設置する　図示（　　）

2 折板葺

(13.2.2)（13.3.2.3）(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高，山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
屋根	※重ね形， はぜ締め形 ・かん合形	150		（　）種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ 合金板製	0.8	(・)有り ・無し	・30分 (・)無し
	・			・	(・)ｽﾃﾝﾚｽ			

材料　板及びコイルの種類（　　）
塗膜の耐久性，めっき付着量等の種類及び記号（　　）

断熱材　(・)有り（種別：ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ　厚さ(mm)：1.0　防火性能：　時間）
・無し

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない

3 粘土瓦葺

(13.4.2.3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
							・適用する ・適用しない
							・適用する ・適用しない

瓦桟木　　材質　※杉又はひのき　・
寸法　※幅21×高さ15(mm)　・
棟補強用心材　材質　※杉又はひのき　・
寸法　※幅40×高さ30(mm)　・

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない
瓦桟木の留付け工法　※図示　・

棟の工法　・7寸丸伏せ棟又はF型用冠瓦伏せ棟　・のし一体棟　・のし積み棟　・

4 とい

(13.5.2.3)（表13.5.5)

といの材種　・配管用鋼管　・硬質ポリ塩化ビニル管　・
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

鋼管製といの防露巻き
・適用する（工法：※標準仕様書　表13.5.5による　・　　）
・適用しない

ルーフドレン

種　別	施工箇所
・ろく屋根用（・緩型　・横型）	
・バルコニー用	
・バルコニー中継用	

⑭ 金属工事

1 ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種　類	施工箇所（手すり，タラップ，建具以外）
※HL程度	
・No.2B　程度	
・鏡面仕上　程度	

2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)（表14.2.1)

種　別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所（成形板，笠木，建具以外）
・A-1種	※AA15　・	
・A-2種（・ｱﾝﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※AA15　・	
・B-1種	※B　・	
・B-2種（・ｱﾝﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※B　・	
・C-1種	※AA6　・	
・C-2種（・ｱﾝﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※AA6　・	
・D種		
・		

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色

③ 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)（表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所（手すり，タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	(・)A種	柱・梁
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

4 軽量鉄骨天井下地

(14.4.2～4)（表14.4.1)

野縁等の種類
屋外　※25型　・19型
屋内　※19型　・25型
・屋外の軒天井，ピロティ天井等
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
野縁受，吊りボルト，インサートの間隔及び周辺部からの距離　※図示　・
周辺部の端からの間隔　・図示　・
野縁の間隔　・図示　・

・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法　※図示　・

・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
補強方法　※標準仕様書14.4.4(h)(1)～(2)による　・図示

・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法　※図示　・

・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所　・図示　・
補強方法　※図示　・

5 軽量鉄骨壁下地

(14.5.3)（表14.5.1)

スタッド，ランナーの種類
※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図示　・

6 金属成形板張り

(14.6.2.3)（表14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	表面処理 皮膜等の種類
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・押出し ・ロール	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形			・B－1種	※B　・
	・プレス ・	ﾊﾟﾈﾙ形			・B-2種（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※B　・
	・				・C－1種	※AA6　・
					・C-2種（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※AA6　・
					・D種	
					・	・

取付け用下地　※標準仕様書14.4による　・図示

伸縮調整継手　・設ける（施工箇所　・図示　・　　）
・設けない

7 ｱﾙﾐﾆｳﾑ製笠木

(14.7.2.3)（表14.2.1)（表14.7.1)

種類　・250形　・300形　・350形　・100形
表面処理　種別（　）種　皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　　）
着色（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない

8 手すり及びタラップ

(14.8.2.3)

手すり　・ステンレス製　SUS 304（表面処理　※HL程度　・No.2B程度　・　）
・鋼製　（表面処理　・溶融亜鉛めっきC種　・　）

タラップ　・ステンレス製　SUS 304（表面処理　※研磨なし　・　）
・鋼製　（表面処理　・溶融亜鉛めっきC種　・　）

⑮ 左官工事

1 モルタル塗り

(15.2.2.5)

既製目地材　・設ける　施工箇所（　　）　形状（※図示　・　　）
・設けない

床目地　・設ける（工法　※押し目地　・　　）
・設けない

外壁タイル張り下地の下地モルタルの接着力試験
・行う
・行わない

・防水剤

2 床コンクリート直均し仕上げ

(6.2.5)（15.3.2)

下表以外は標準仕様書表6.2.5及び標準仕様書15.3.2による

施工箇所	平たんさ(mm)	備　考
・フリーアクセスフロア（支持調整式）範囲	1mにつき10以下	
・フリーアクセスフロア（置敷式）範囲	3mにつき7以下	
・		

3 セルフレベリング材塗り

(15.4.2)（表15.4.1)

・せっこう系　・セメント系

4 仕上塗材仕上げ

(15.5.2)（表15.5.1)

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Si	・	・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
	・外装薄塗材E	・	・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材E	・	・平たん状
	・防水形外装薄塗材E	・	・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
	・外装薄塗材S	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
	・内装薄塗材C	・	・砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材L	・	・京壁状じゅらく
	・内装薄塗材Si	・	
	・内装薄塗材E	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装薄塗材W	・	耐湿性　・適用する　・適用しない
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し　・凸部処理　・平たん状
	・外装厚塗材Si	・	・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
	・外装厚塗材E	・	
	・内装厚塗材C	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材L	・	上塗材　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材G	・	
	・内装厚塗材Si	・	
	・内装厚塗材E	・	
(・)複層仕上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状　・凸部処理　(・)凹凸状
	・可とう形複層塗材CE	・	
	・複層塗材Si	・	上塗材
	・複層塗材E	・	耐候性　※耐侯形３種　・
	・複層塗材RE	・	溶　媒　※水系　・溶剤系
	・防水形複層塗材CE	・	樹　脂　※アクリル系　・
	・防水形複層塗材E	・	外　観　※つやあり　・つやなし　・ﾒﾀﾘｯｸ
	(・)防水形複層塗材RE	・	
	・防水形複層塗材RS	・	
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・	
	・こて塗用軽量塗材	・	

⑤ ＡＬＣパネルの場合の下地処理

(15.5.4)

内壁目地部の形状　※Ｖ形目地付き　・

6 マスチック塗材塗り

(15.6.2)

種別　・Ａ種　・Ｂ種（仕上材塗り:EP-G ※B種　・A種）

7 ロックウール吹付け

(15.8.2)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
吹付け厚さ(mm)　・図示　・25

工事名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事(担い手随契型)（若手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(5/9)		
縮尺	－	図面番号	2-5
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

⑯ 建具工事

1 防火戸 (16.1.3)

※建具表による ・

② 見本の製作等 (16.1.4)

建具見本の製作 ・行う（建具符号：　　）
⊙行わない
建具見本の程度 ・工事に使用するものとして，あらかじめ製作する
・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組 ・行う（建具符号：　　）
・行わない

3 防犯建物部品 (16.1.6)

・適用する（適用箇所は建具表による ・　　）
・適用しない

④ アルミニウム製建具 (16.2.2,4,5)（表14.2.1）

性能等級
外部に面する建具 ・A種（建具符号：※建具表による ・　　）
⊙B種（建具符号：※建具表による ・　　）
・C種（建具符号：※建具表による ・　　）
・防音ドアセット，防音サッシ　遮音性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・断熱ドアセット，断熱サッシG　断熱性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・耐震ドアセット　面内変形追随性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
枠の見込み寸法 ・建具表による ・
表面処理
外部に面する建具 ・BB-1種 ⊙BB-2種 ・
皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による ・　）
着色（・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー）
屋内の建具 ・C-1種 ・C-2種 ・
皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による ・　）
着色（・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー）
結露水の処理方法 ※図示 ・
水切り板，ぜん板 ※図示 ・

⑤ 網戸等 (16.2.3)

種　類	材　種	線　径	網　目
⊙防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ⊙ステンレス(SUS 316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS 304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

6 樹脂製建具 (16.3.2～5)

性能等級
外部に面する建具 ・A種（建具符号：※建具表による ・　　）
・B種（建具符号：※建具表による ・　　）
・C種（建具符号：※建具表による ・　　）
・防音ドアセット・防音サッシ　遮音性の等級（・T-1 ・T-2）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・断熱ドアセット，断熱サッシG　断熱性の等級（・H-4 ・H-5 ・H-6 ・ ）
（建具符号：・建具表による ・　　）
枠の見込み寸法 ・建具表による ・
表面色 ※標準色 ・特注色
水切り板，ぜん板 ※図示 ・
ガラス ※複層ガラス ・

7 鋼製建具 (16.2.2)（16.4.2～4）（表16.4.2）

性能等級
簡易気密型 ・適用する
（建具符号：・建具表による ・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4（建具符号：・建具表による ・　　）
・S-5（建具符号：・建具表による ・　　）
・S-6（建具符号：・建具表による ・　　）
・
・防音ドアセット・防音サッシ　遮音性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・断熱ドアセット・断熱サッシG　断熱性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・耐震ドアセット　面内変形追随性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）

鋼板

材　料	めっき付着量	厚　さ
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）	※Z12又はF12 ・	※標準仕様書表16.4.2による ・
・JIS G 3317（溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）	※Y08 ・	

8 鋼製軽量建具 (16.2.2)（16.5.2～4）

性能等級
簡易気密型 ・適用する
（建具符号：・建具表による ・　　）
・適用しない
・防音ドアセット・防音サッシ　遮音性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・断熱ドアセット・断熱サッシG　断熱性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・耐震ドアセット　面内変形追随性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板
鋼板の厚さ ※標準仕様書表16.5.1による ・
召合せ，縦小口包み板の材質 ※鋼板 ・

9 ステンレス製建具 (16.2.2)（16.4.2）（16.6.2～4）

性能等級
簡易気密型 ・適用する
（建具符号：・建具表による ・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4（建具符号：・建具表による ・　　）
・S-5（建具符号：・建具表による ・　　）
・S-6（建具符号：・建具表による ・　　）
・
・防音ドアセット・防音サッシ　遮音性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・断熱ドアセット・断熱サッシG　断熱性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
・耐震ドアセット　面内変形追随性の等級（　）
（建具符号：・建具表による ・　　）
鋼板（屋外） ※SUS 430JIL，SUS 443J1，SUS 304 ・
鋼板（屋内） ※SUS 430，SUS 430JIL，SUS 443J1，SUS 304 ・
表面仕上げ ※ＨＬ ・鏡面 ・
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ

10 木製建具 (16.7.2～4)

建具材の加工，組立時の含水率 ※B種 ・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・

・フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	樹種・規格等	備　考
・普通合板G	表面の樹種 生地，透明塗料塗り （※ﾗﾜﾝ合板程度 ・　　） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・　　） 板面の品質（　　） 接着の程度（・1類 ・2類）	
・天然木化粧合板G	樹種名（　　） 接着の程度（・1類 ・2類）	
・特殊加工化粧合板G	化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類）	

表面板の厚さ ※表16.7.6による ・

・かまち戸
かまち樹種（　　） 鏡板樹種（　　）
見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型 ・Ⅱ型）
上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 押入等の裏側は雲花紙程度
縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・
・戸ふすま
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・
・紙張り障子
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・

枠，くつずりの材料 ・建具表による ・

⑪ 建具用金物 (16.8.2,3)

金物の種類・見え掛り部の材質等
※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による ・
樹脂製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表16.8.3による ・
握り玉，レバーハンドル，押板類，クレセントの取付位置
⊙建具表による ・
錠前類
⊙建具表による ・
クローザ類
⊙建具表による ・

⑫ 鍵 (16.8.4)

マスターキー ・製作する ⊙製作しない
その他の鍵 ※各室３本１組 ・
鍵箱 ※有り ・無し

13 自動ドア開閉装置 (16.9.2,3)

自動ドア	性　能	防　錆	センサーの種類	凍結防止
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2	※標準仕様書表16.9.1による ・	・適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う （適用箇所は建具表による） ・行わない
・SWD-1 ・SWD-1	※標準仕様書表16.9.2による ・			
・図示				

14 自動閉式上吊り引戸装置 (16.10.3)

性能 ※標準仕様書表16.10.1による ・

15 重量シャッター (16.11.2,3)

シャッターの種類 ・管理用シャッター 耐風圧強度（　　）N/㎡
・外壁用防火シャッター 耐風圧強度（　　）N/㎡
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
開閉機能による種類 ※上部電動式（手動併用） ・上部手動式
シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類 ・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量 ※Z12又はF12 ・

⑯ 軽量シャッター (16.12.2～4)

開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度（800）N/㎡
スラットの材質
⊙JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量（※Z06又はF06 ・　　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量（※AZ90 ・　　）
スラットの形状 ⊙インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

17 オーバーヘッドドア (16.13.2,3)

セクション材料による区分	耐風圧区分(Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

⑱ ガラス (9.7)（16.14.2～4）（表16.14.1）

適用は以下によるほか，ガラスの種類・厚さは建具表による。
・合わせガラス

品　種	構成種類	性　能
・フロート合わせガラス	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収，フロート板合わせガラス	・Ⅰ類
・網入磨き合わせガラス	・網入磨き，フロート板合わせガラス ・網入磨き，熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類

・強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種　類	性　能
・フロートガラス	・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ・Ⅲ類
・型板ガラス	・型板強化ガラス	

・熱線吸収板ガラス

品　種	性　能	色　調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入磨き板ガラス	・１種 ・２種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ

・複層ガラス

品　類	断熱性	日射熱遮へい性
・断熱複層ガラス	・１種	U1
	・２種	U2
	・３種	・U-3-1 ・U-3-2
・日射熱遮へい複層ガラス	・４種	E4
	・５種	E5

・熱線反射ガラス

品　類	日射遮へい性	耐久性
・熱線反射ガラス 色調（・ブルー ・グレー）	・１種 ・２種	A種 ・A種 ・B種
・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ ・シルバー）	・３種	B種

反射被膜面 ・内面 ・外面
映像調整 ・行わない ・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色　調
・フロート倍強度ガラス	―
・熱線吸収倍強度ガラス	・グレー ・ブルー ・ブロンズ

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	⊙シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示 ・
鋼製及び鋼製軽量	⊙シーリング材 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示 ・
ステンレス製	・シーリング材 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示 ・

19 ガラスブロック (16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)	防火性能
・正方形	・125×125	80	・	・	※8～15 ・15～25 ・	外側 ※15以下 内側 ※6以上 ・	※6m以下ごとに10～25 ・図示 ・	※無し ・有り
	・160×160	・95	・	・				
		・125	・	・				
	・200×200	・95	・	・				
		・125	・	・				
	・320×320	95	・	・				
・長方形	・250×125	80	・	・				
	・320×160	95	・	・				

曲面積みの曲率半径は，ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材 ・設ける（形状 ※図示 ・　　）
・設けない
力骨 材質 ※ステンレス鋼(SUS 304) ・
寸法 ※径5.5mm ・
形状 ※はしご形状複筋及び単筋 ・
化粧目地モルタルの色（　　）
金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製
寸法 ※図示 ・
形状 ※図示 ・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
目地部の力骨の補強方法
※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示 ・

17 カーテンウォール工事

1 取付方法，性能等 (17.1.3)（17.2.2）（17.3.2）

取付方法 ・層間方式 ・柱，梁方式 ・方立方式 ・スパンドレル方式 ・
性能

耐震性能 水平方向(kH)	耐震性能 垂直方向(kV)	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)
・1.0 ・	・0.5 ・					・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性能
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能	状　態
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ・	部材の脱落，ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4mを超える	・	

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	・±(1/200)×h以上 ・	部材の脱落，ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。シーリングは補修程度の損傷であること。
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・±(1/300)×h以上	

シーリング材
下表以外は標準仕様書表9.7.1による

被着体の組合せ		シーリング材の種類 記号	シーリング材の種類 主成分による区分
金属	ガラス		
	石，タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

ガラスの取付け
構造ガスケット
・適用する （施工箇所 ・図示 ・　　）
材質 ・クロロプレン系 ・EPDM系 ・シリコーン系
形状 ・H型 ・Y型 ・C型
寸法(mm) ガラス板厚（　），支持枠の厚さ（　），ウェブの寸法（　）
・適用しない
断熱材G
種類（　　）
厚さ(mm)（　　）
施工箇所 ・図示 ・

耐火材料

施工部位	種　別	規格帯
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

性能の確認方法及び判定方法
・行う ・行わない（資料による承諾）

2 メタルカーテンウォール

カーテンウォールの材料 (17.2.2,3,5)

材　料	規格等	表面処理	映像調整
※アルミニウム製	※標準仕様書16.2.3による ・	・A-1種 ・A-2種 ・ 皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による ・ ） 着色（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	・行う ・行わない
・			

製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.2.1～3による
ガラス溝の寸法，形状 ※製作所の仕様による ・

3 PCカーテンウォール (17.3.2～5)

カーテンウォールの材料
コンクリート ※標準仕様書17.3.2(a)(ⅰ)～(ⅳ)による ・
鉄筋 ※SD295A（・D13 ・D10）
補強鉄線の径(mm) ※3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0
配筋 ※図示
先付けの材料 ・サッシ枠 ・ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上げ材 ・磁器質タイル
・石材（・花こう岩 ・大理石 ・ ）
・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・h=-1～+2，W1及びW2=±1
製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.1～2による ・

工事名	R7阿部 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手随保型）（差手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(6/9)		
縮　尺	-	図面番号	2-6
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

⑱ 塗装工事

① 材料

(18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・
・防火材料　※屋内の壁，天井仕上げは防火材料とする
　　・次の箇所を除き防火材料とする（箇所：　　）

② 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種　別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面		※C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面及びALCパネル面		※B種　・A種
コンクリート面及び押出成形セメント板面		・A種　・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種　・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

③ 錆止め塗料塗り

(18.3.2,3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種　・B種	
	見え隠れ部分	※B種　・A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種　・B種	・A種
	鋼製建具以外	※B種　・A種	・B種

④ 塗装

(18.4.1～18.14.2)

塗　装		種　別	塗料の種類
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種
	木部屋内	※B種　・A種	※1種　・2種
	鉄鋼面	※B種　・A種	※1種　・2種
	亜鉛めっき鋼面	—	※1種　・2種
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	—
・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	—
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	—	上塗り等級（ ）級
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗り等級（ ）級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	※A種　・B種　・C種	上塗り等級（ ）級
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面等	※B種　・A種	—
	屋内の鉄鋼面	※B種　・A種	—
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	—
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		※B種　・A種	—
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	—
・ラッカーエナメル塗り(LE)		※B種　・A種	—
・オイルステイン塗り(OS)		—	—
・木材保護塗料塗り(WP)	屋外	※B種　・A種	—

屋上，屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日射反射率塗装G とする。

19 内装工事

1 接着剤

(19.2.2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・
接着剤に含まれる可塑剤は，難揮発性のものとする。

2 ビニル床シートG

(19.2.2,3)

区　分	JIS記号・種類	施工箇所	色　柄	特殊機能	厚さ（mm）	備考
発泡層のないもの	※FS（複層）・		・無地・マーブル柄	・帯電防止・耐動荷重性	※2.0・	
発泡層のあるもの	・		・無地・柄物	・防滑性・耐薬品性		

工法　※熱溶接工法　・突付け（施工箇所：　　）

特殊機能
　帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
　　又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{2}～$10^{10}\Omega$程度
　　・

3 ビニル床タイルG

(19.2.2)

JIS記号・種類	施工箇所	色柄	寸法（mm）	特殊機能	厚さ（mm）	備考
・FT（複層）		・無地・柄物	・300×300・450×450	・帯電防止・防滑性	※2.0・2.5・3.0	
・KT（コンポジション）		・無地・柄物	・300×300・450×450	・帯電防止・防滑性	※2.0・3.0	
・FOA（置敷き）		・無地・柄物	・500×500・	・帯電防止・防滑性	・	

特殊機能
　帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
　　又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10 ～10 Ω程度
　　・

4 ビニル幅木

(19.2.2)

材質　　・軟質　　・硬質
高さ（mm）　※60　・70　・100
厚さ（mm）　※1.5以上　・

5 ゴム床タイル

(19.2.2)

色柄　　（　　）
厚さ（mm）　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法（mm）　（　　）

6 カーペット敷きG

(19.3.3,4)（表19.3.1,2）

・織じゅうたん

種　別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備　考
・A種 ・B種 ・C種	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ､ﾙｰﾌﾟ併用	・ｳｨﾙﾄﾝｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀﾞﾌﾞﾙﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰｶｰﾍﾟｯﾄ	・無地 ・柄物 （標準品）	・適用する （性能：※人体帯電圧3kV以下 ・　　） ・適用しない	

下敷き材　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ（mm）	工　法	帯電性	備　考
・カットパイル	・5～7　・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する （性能：※人体帯電圧3kV以下 ・　　） ・適用しない	
・ループパイル	・4～6　・			
・レベルループパイル	・4　・			
・カット，ループ併用	・			

下敷き材(グリッパー工法の場合)
　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・ニードルパンチカーペット
厚さ（mm）　（　）
帯電性　　・適用する（性能：※人体帯電圧3kv 以下　・　　）
　　・適用しない
備考　　（　　）

・タイルカーペット

パイル形状	種　類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備　考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カット，ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	

タイルカーペットの敷き方　平場　　※市松敷き　・模様流し　・
　　階段部分　※模様流し　・市松敷き　・

見切り，押え金物　・適用する（材質，形状等　※図示　・　　）
　　・適用しない

7 合成樹脂塗床

(19.4.2,3)（表19.4.1～8）

種　類	施工箇所	工　法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床材			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂塗床材		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗床材 （JIS K 5970）			工程 塗布量（kg/㎡） ・ 表面仕上げ ・平滑　・防滑 溶剤 ・水性色　・溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色　・

合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・　(19.4.2)

8 フローリング張り

(19.5.2～6)（表19.5.1～5）

単層フローリングG

種　類	工　法	樹　種	厚さ（mm）	大きさ（mm）	仕上塗装	間伐材等の適用
・フローリングボード1等	・釘留め工法（根太張り）	※なら・	・15・	幅 75 板長さ　500以上	・塗装品 ・無塗装品	・
	・釘留め工法（直張り）	※なら・	・12以上・	幅 75 板長さ　300以上		・
	・接着工法	※なら・	・12以上・	幅 75 板長さ　300以上		・
・フローリングブロック1等	・接着工法	※なら・	15	303×303・	・塗装品 ・無塗装品	・
・モザイクパーケット1等	・接着工法	・	・	・	・塗装品 ・無塗装品	・

複合フローリングG

種　類	工　法	樹　種	厚さ・大きさ（mm）	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等の適用
※天然木化粧	・釘留め工法（根太張り） ・釘留め工法（直張り）	※なら・		・A種 ・B種 ※C種	・適用する ・適用しない	・塗装品 ・無塗装品	・
	・接着工法	※なら・	板厚 ・8以上 ・ 板幅 ・75以上 ・ 板長さ 900以上				・

複合フローリングのホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
接着工法の場合の緩衝材　※合成樹脂発泡シート　・
現場塗装仕上　・行う（施工箇所　　）
　　※ウレタン樹脂ワニス塗り
　　・オイルステインの上，ワックス塗り
　　・生地のままワックス塗り
　　・行わない

9 畳敷き

(19.6.2)（表19.6.1）

種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書　表12.6.1による床組
　　・ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン G)
畳表及び畳床はホルムアルデヒド，アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか，発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

10 せっこうボード，その他ボード及び合板張り

(19.7.2,3)（表19.7.1）

種　類	JIS記号	厚さ（mm），規格等
・硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板G	HW	・15　・20　・25　・
・中質木毛セメント板G	MW	・15　・20　・25　・
・普通木毛ｾﾒﾝﾄ板G	NW	・15　・20　・25　・
・硬質木片ｾﾒﾝﾄ板G	HF	・12　・15　・18　・21　・
・普通木片ｾﾒﾝﾄ板	NF	・30　・
・けい酸ｶﾙｼｳﾑ板	0.8FK 1.0FK	ﾀｲﾌﾟ2（無石綿）　・6　・8
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板	DR	・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ（・9　(不燃)・12・　） ・凹凸ﾀｲﾌﾟ（・12(不燃)・15・　）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ1号	RW-B	・25　・
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ32K	GW-B	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包）　・
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-R	・12.5（不燃）・15（不燃）・　(19.8.2,3)
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-NC	9.5（不燃）化粧無（下地張り用） 化粧有（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）
・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-S	12.5（不燃）
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-F	・12.5（不燃）・15（不燃）
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ	GB-L	9.5
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（木目）	GB-D	12.5（不燃）　幅440mm程度 模様（・柾目　・板目）専用下地材有り
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	GB-D	9.5（準不燃）
・普通合板G		表面の材種 生地，透明塗料塗り （※ﾗﾜﾝ程度　・　　） 不透明塗料塗り （※しな程度・　　） 板面の品質（　　） 厚さ(mm)（　　）　(19.9.2,3) 接着の程度（　　） ・防虫処理
・天然木化粧合板G		樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類 ） 厚さ(mm)（　　） ・防虫処理
・特殊加工化粧合板G		化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類 ） 厚さ(mm)（　　） ・防虫処理
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板		JIS K 6903 による厚さ（※1.2・　）
・ﾎﾟﾘｽﾃﾙ樹脂化粧板		
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞG	MDF	・3　・7　・9　・12　・
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞG		・無研磨板　・研磨板 ・10　・12　・15　・18　・
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄG		・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・塗装 ・10（難燃）・12（難燃）・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（素地）G	HB	・無研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ） ・研磨板　（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（化粧）G		・内装用　・外装用 ・2.5　・3.5　・5　・7
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞG	IB	A級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18

せっこうボード等の下地は図示による。
遮音シール材　　・適用する（・シーリング材　・ジョイントコンパウンド）
　　・適用しない
合板類，MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・
合板類の張付け　　※B種　・A種
せっこうボードの目地工法　・仕上げ表による

11 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・　(19.5.2,3)

施工箇所	壁紙の種類：紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	防火種別	備　考
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	

モルタル及びプラスター面の素地ごしらえ　　※B種　・A種
コンクリート及びALC面の素地ごしらえ　　※B種　・A種
せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ　※B種　・A種

12 断熱材G

(19.9.2,3)

ロックウール，グラスウール，フェノールフォーム，ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・

・断熱材打込み工法

種　類		厚さ（mm）	施工箇所
・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材 ・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材		・	
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材（ｽｷﾝ層なし）	・保温板（2種b）	・25　・	
	・保温板（3種b）	・25　・	・接地部分 ・
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材（ｽｷﾝなし）	・	・	
・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材 ・A種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材		・	
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材 ・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温材 （3種2号を除く）		・	

・断熱材現場発泡工法
　断熱材の種類　※A種1　　・B種1
　厚さ（mm）　　・25　・30　・
　施工箇所　　・図示　・

工 事 名	R7阿南　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（担い手建保型）（落手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(7/9)		
縮　尺	-	図面番号	2-7
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

20 ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構　法	寸法（mm）	高さ（mm）	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材	備　考
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・	

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(b)(5)(ⅰ)～(ⅲ)による　・
厚さ　±0.5mm
平坦度　パネル周辺部　1.0mm以下
図心と各頂点を結ぶ線上部　2.0mm以下

表面仕上材の品質，性能は，標準仕様書19章による。
構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼製(仕上げ：　　)　・
スロープ及びボーダー　・製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　・20～30パーセント
・
配線取り出し開口　・パネル1枚につき，40mm×80mm　程度の開口1箇所以上
・図示
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・なし　・あり（形式，施工箇所：図示）

2 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	構成機材の種類		総厚さ（mm）	表面仕上材			遮音性能（dB/500Hz）	防火性能
	スタッド	パネル		材質	厚さ（mm）	パネル表面仕上げ		
・スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・スタッドパネル式 ・パネル式				・鋼板 ・	・0.6 ・0.8	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付け ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　　）・なし
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質，性能は標準仕様書19章による
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

3 移動間仕切

(20.2.4)

走行方向	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ（mm）	表面仕上材		遮音性（dB/500Hz）
				材質	パネル表面仕上げ	
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質，性能　標準仕様書19章による
遮音性は，JIS A 6512に準拠し，中心周波数500Hzの音についての透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の５倍以上の荷重に対して，使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示

4 トイレブース

(20.2.5)

表面材の材質	脚　部	ドアエッジ	
	形　状	形　状	材　質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	・標準 ・R	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

パネル材料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

5 視覚障害者用床タイル

(11.2.2)（19.2.2）

施工箇所		種　類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内		・塩化ビニル製	・300×300　・	・7.0　・
		・磁器質タイル（Ⅰ類） ・せっ器質タイル（Ⅱ類）	・300×300　・	・ ・
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300　・	・ ・
屋外		・磁器質タイル（Ⅰ類） ・せっ器質タイル（Ⅱ類）	・300×300　・	・ ・
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300　・	・ ・

ブロックパターンは JIS T 9251 による

6 階段滑り止め

(20.2.6)

材　種	幅（mm）	取付け工法	端部フラットエンド	
・ステンレス製（SUS 304） ビニルタイヤ入り	・約35 ・	※接着工法 ・埋込み工法	・あり	・ビニル製 ・ステンレス製
・			・なし	ー

7 手すり

材　種	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所	備考
※集成材	・クリヤラッカー ・	・35 ・45 ・		
・ステンレスパイプ	・HL ・			
・鋼製パイプ	・EP-G ・SOP ・			
・ビニル製ハンドレール				

8 黒板及び
ホワイトボード G

(20.2.8)

種　類	寸法（mm）	色	形　式	
・黒板	※焼付け ・	※緑 ・黒	・平面 ・曲面	・スクリーン付き引分け ・
・ホワイトボード	※ほうろう	白	・平面 ・曲面	・スクリーン付き引分け ・

9 鏡

(20.2.9)

取付箇所　（　　）
寸法（mm）　・図示　・
厚さ（mm）　※5　・

10 表示

(20.2.10)

区　分	材　質	寸法（mm）	厚さ（mm）	取付高さ（mm）	備　考
・衝突防止表示 （・両面　・片面）	・ステンレス製 ・図示	・30φ ・	・市販品 ・	・図示 ・	
・室名札	・アクリル板 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・	
・案内用図記号	・アクリル板 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・	
・とびら番号	・アクリル板 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・	
・庁舎案内板	・アクリル板 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・	
・各階案内板	・アクリル板 ・	・図示 ・	・5 ・	・図示 ・	
・					

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識，非常用進入口表示等は市販品とする。
色，書体，印刷等の種別，取付け形式等は図示による。

11 煙突ライニング

(20.2.11)

煙突用成形ライニング材　・適用する　・適用しない
適用安全使用温度　・400℃　・650℃　・
キャスタブル耐火材　煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする

12 ブラインド

(20.2.12)

形　式	操作方法	種　類	スラットの材質	スラット幅（mm）	ボックス・レールの材種	寸法・取付箇所
・横型	・手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示 ・
	・電動	ー				
・縦型	・手動	※2本操作コード ・1本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100	アルミニウム合金製	・図示 ・
	・電動	ー				

アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 G

13 ロールスクリーン G

(20.2.13)

材　種	操作方式	遮光性能	寸法（mm）	取付箇所	備　考
・ポリエステル ・	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・1級 ・2級 ・3級 ・	・図示 ・	・図示 ・	

巻取りパイプ，ウェイトバー，操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。

14 カーテン

(20.2.14)

形　式		開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別，品質，特殊加工等	取付箇所	備　考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ，つまひだ ・プレーンひだ，片ひだ		・図示 ・	
						（暗幕）

使用される繊維のうち，ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については G とする
暗幕カーテンの両端，上部及び召合せの重なり　※300mm以上　・

15 カーテンレール

(20.2.14)

材種　※アルミニウム製　・ステンレス製
形式　・シングル　・ダブル
・片引き　・引分け
強さによる区分　※　10-90　・
仕上げ　※アルマイト　・
形状　※角形　・

16 ブラインドボックス及び
カーテンボックス

溝幅×深さ（mm）　・90×150　※120×80　・120×150　・150×80　・図示
材質　・集成材（仕上げ：　　）
・アルミニウム製　押出し型材（市販品）
表面処理・C-1
・C-2（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
・
皮膜等の種類　※標準仕様書表14.2.1による　・
・鋼製（仕上げ：　　）

17 天井点検口

材　種	寸　法	形　式		外　枠	内　枠
・アルミニウム製 ・	・450×450 ・600×600 ・	・一般形	・屋内外用 ・屋内用	・額縁タイプ ・目地タイプ	・額縁タイプ ・目地タイプ
		・密閉形			

18 床点検口

材　種	寸　法	形　式		備　考
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

19 耐震スリット

方　向	タイプ	耐火性能	防水性能	備　考
・垂直方法 ・水平方向	・完全（全貫通型） ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目　地	内　壁	外　壁
目地材	・シーリング材（見え掛り部のみ） ・	・シーリング材（見え掛かり部のみ） ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	※幅20×深さ10 ・	※幅20×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.2による

20 止水板

形式　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示　・

21 エキスパンション
ジョイント金物

材　種	クリアランス		耐火性能	備　考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・150	・100 ・	・有り（　　） ・無し	

外部は防水型とする

22 くつふきマット

材　種	受　け　枠	備　考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS 304）製 ・	・ステンレス鋼（SUS 304） ・硬質アルミニウム合金 ・	

23 流し台ユニット

材　種	寸法（mm）			備　考
	W	D	H	
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1800 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	ー	ー	市販品 ステンレス製 ・1段式　・

品質・性能　JIS A 4420による
形状　※図示　・

24 旗竿

材　質	形　式	高さ（m）	操作方法	固定方法	備　考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー型 ・同一断面型		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込み式 ・ベース式 ・バンド式	

25 旗竿受金物

材種　・ステンレス製（SUS 304）　・

26 車止め支柱

形　式		材　種	柱径・肉厚（mm）	高さ（mm）
・上下式鎖内蔵型	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・ ・
・				

27 フェンス

フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ　・図示　・

28 プレキャストコンクリート

(20.3.3.4)

コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下，単位セメント量の最小値300kg/㎥を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・図示
取付け方法
※図示
・

29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み積み

(20.4.2.3)

材　種	材　種	種　類	質量区分	備　考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	ー	ー	
・コンクリート間知ブロック	・		・A ・B	

積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・
伸縮目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

30 鋼製書架及び物品棚

種　類	規格等	耐荷量による種類
・鋼製書架	JIS S 1039による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種　・

31 屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

32 洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・人工大理石
奥行き（mm）　・約450　・約600

33 防煙垂れ壁

・固定式

材　質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備　考
※網入り磨き板ガラス ・線入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種　類	材　質	高さ（mm）	備　考
・垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込み型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込み型）

34 収納家具

材質　・　　(12.2.2)（19.7.2）
形状・寸法　※図示
合板，集成材，MDF，パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種

35 屋外掲示板

照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し

36 敷地境界石標

種類　※コンクリートブロック製（市販品）
・花こう石類（文字記号等入り）
設置方法
根切り底を突き締めたうえ，厚さ60mmの砂利地業を行い，コンクリートで根巻きして建て込む。建込みは監督職員の立会いのもと行う。
コンクリートの調合　（容積比）セメント1：砂2：砂利4程度

工 事 名	R7阿耕　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（担い手確保型）（若手日当定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(8/9)		
縮　尺	-	図面番号	2-8
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

21 排水工事

1 屋外雨水排水

(21.2.1)(表21.2.1)

排水管材料

材　種	管の種類	形　状	呼び径	備　考
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（1種）	・B形管 ・	・図示　・	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		・図示　・	
	・VU		・図示　・	
	・RS－VU G		・図示　・	
・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・DV		・図示　・	

基床の厚さ及び種類　・図示　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・
側塊の形状及び寸法　・図示　・
排水桝の種類　・図示　・
砂地業に用いる材料
※標準仕様書（21.2.1）(g)(1)　・図示
砂利地業に用いる材料
※標準仕様書（21.2.1）(g)(2)　・図示
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書（6.14）
設計基準強度18N/mm2 とする。
ただし，コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）　セメント１：砂２：砂利４程度とする。
・図示

・凍上抑制層　(21.2.1)(表21.2.2)
厚さ　・図示　・
材料　・再生クラッシャラン G
・クラッシャラン
・切込み砂利
・川砂，海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量10%以下）
砂の粒度試験　・行う　・行わない

2 鋳鉄製ふた

(21.2.1)

名　称	種　類	適用荷重	鍵	備　考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉形（テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）	・T－ 2用 ・T－ 6用 ・T－20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による

3 グレーチング

(21.2.1)

材　質	形　式	用　途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・鋼製	・受枠付き，ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	・細目	・（　）	・凹凸形 ・
			・T－2用 ・T－6用 ・T－14用 ・T－20用	※普通目 ・細目	・（　）	・平形 ・
・ステンレス製	・受枠付き，ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	－	－	・凹凸形 ・
			・T－2用 ・T－6用 ・T－14用 ・T－20用	－	－	・平形 ・

4 街きょ，縁石，側溝

街きょ，縁石，側溝　(21.3.1)（表21.3.1）

種　類	形状，寸法
・縁石	・図示　・
・L形側溝	・図示　・
・U形側溝	・図示　・
・U形側溝ふた	・図示　・
・	・図示　・

地業の材料　※標準仕様書（4.6.2）(a)による　・図示
砂利地業の厚さ　※100（mm）　・図示
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書（6.14）
設計基準強度18N/mm2 とする。
ただし，コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）　セメント１：砂２：砂利４程度とする。
・図示

・凍上抑制層　(21.2.1)(表21.2.2)
厚さ　・図示　・
材料　・再生クラッシャラン G
・クラッシャラン
・切込み砂利
・川砂，海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量10%以下）
砂の粒度試験　・行う　・行わない

5 埋戻し土

(21.2.1)

※B種　・

22 舗装工事

1 路床

(22.2.2,3,5)

路床の材料

種　別	材　料	厚　さ（mm）
・盛土	・A種　・B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G　・クラッシャラン ・切込み砂利 ・川砂，海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量10%以下）	・図示 ・
・フィルター層	・川砂，海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量6%以下） ・	・図示 ・

路床安定処理
・添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（　　）　・消石灰（　　）
添加量　kg（目標CBR　・5以上　・　　）
・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数　・1.5×10^{-1} cm/sec以上　・
試験
砂の粒度試験　・行う　・行わない
路床土の支持力比（CBR）試験　・行う　・行わない
現場CBR試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験（現場密度）　・行う　・行わない

2 路盤

(22.3.2,3,5)(表22.3.1)

路盤の厚さ　・図示　・
路盤材料　・砕石
・再生クラッシャラン G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G
・　　・図示
試験
路盤締固め度の試験　※行う　・行わない

3 アスファルト舗装

(22.4.2～6)(表22.4.1～4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・
材料
アスファルト　・再生アスファルト G　・ストレートアスファルト
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G

加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表22.4.4)

区　分	地　域	種　類
表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物(13)
	・寒冷地域	・密粒度アスファルト混合物(13F)

シールコートの施工
・行う　・行わない
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

4 コンクリート舗装

(22.5.2～4,6)(表22.5.1～3)

コンクリート舗装の厚さ

舗装の種類	部　位	厚　さ（mm）
コンクリート舗装	歩行者用通路	※70　・図示
	車路及び駐車場	・150　・図示

寒冷地の縁部立下り寸法等　・図示
材料
コンクリート　・標準仕様書表22.5.2による　・
早強セメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
目地
種類，間隔，構造　※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による　・図示
試験
コンクリート版厚さの試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・
・

5 カラー舗装

(22.6.2～4)(表22.6.1)

種類・工法		部　位	基　層	厚さ(mm)
・加熱系	・アスファルト混合物	・車道及び駐車場 ・歩行者用通路	・無し	・図示 ・
	・石油樹脂系混合物			
・常温系	・ニート工法		・アスファルト舗装	3～5
	・塗布工法		・コンクリート舗装	1程度以下

舗装厚さの許容差　※標準仕様書（22.4.2(C)）による　・
材料
加熱系混合物に添加する材料　・着色骨材（　　）　・自然石（　　）
配合
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量　・
ニート工法及び塗布工法の配合等　・
試験
加熱系　標準仕様書(22.4.6(a)～(c))
抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

6 透水性アスファルト舗装

(22.7.2,3,6)

材　料	厚　さ（mm）
ストレートアスファルト	・図示　・

試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※著しい不陸がないもの　・

7 ブロック系舗装

(22.8.2,3)

・コンクリート平板舗装

種　類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材	備　考
※普通平板（N） ・透水平板（P）	※300角 ・	・60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

歩行者用通路に使用するコンクリート平板は G （再生材料を用いた舗装用ブロック）とする。
透水平板は G （透水性コンクリート）とする。
仕上がり面の平たん性　※歩行に支障のないものとし，コンクリート平板間の段差3mm以内
・

・インターロッキングブロック舗装

種　類	部　位	厚さ（mm）	曲げ強度（N/mm2）	備　考
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P）	車路 歩行者用通路	※80　・ ※60　・	※5.0　・ ※3.0　・	色彩，表面加工 ・標準品 ・
・				

歩道部に使用するブロックは G （再生材料を用いた舗装用ブロック）とする。
透水平板は G （透水性コンクリート）とする。
仕上がり面の平たん性　※歩行に支障のないものとし，ブロック間の段差3mm以内
・

・舗石舗装

種　類	寸法（mm）	厚さ（mm）	施工方法	基層(mm)
・小舗石（花崗岩） ・	・ ・	・80 ・	・うろこ張り ・	・コンクリート舗装（※70　・　） ・アスファルト舗装（※50　・　）

仕上がり面の平たん性　※歩行に支障のないものとし，舗石間の段差3mm以内
・ジオテキスタイル
品質
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

8 砂利敷き

(22.9.2)

種別　・A種（施工範囲：　・図示　・通路　・　　）
・B種（施工範囲：　・図示　・建物周囲他　・　　）

9 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種　類	施　工	適　用	色	幅（mm）	塗布厚さ（mm）
・1種 G	常温	液状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・
・2種 G	加熱				
・3種1号	溶融	粉体状			

G　低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等

(23.1.3)

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験　・行う　・行わない
電気伝導度（EC）の試験　・行う　・行わない

2 植栽基盤の整備

(23.2.2,4)

植　栽	工　法	有効土層の厚さ（cm）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝，地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備　・設ける（※図示　・　　）
・設けない

3 植込み用土

(23.2.3)

※現場発生土の良質土　・客土

4 土壌改良材

(23.2.3)

・バーク堆肥 G
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積1㎡あたり　（　・50ｌ　・　　）

・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）G
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積1㎡あたり　（　・10ｌ　・　　）
材料
・
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので，植害試験の調査の結果，害が認められないものとする

5 樹木

(23.3.2)

樹種，寸法，株立数等　※図示　・

6 支柱

(23.3.2,3)

支柱材　※丸太（間伐材）G　・真竹　・
防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材　・
形式　・図示　・

7 幹巻き用材料

(23.3.2)

材料　※幹巻き用テープ　・わら及びこも

8 芝

(23.4.2)

種類
※コウライシバ　・ノシバ
芝張りの工法
平地　※目地張り　・べた張り
法面　・目地張り　※べた張り

9 吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備　考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

10 地被類

(23.4.2)

樹　種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・
・	・		

11 新植，移植樹木，芝等の枯保証

(23.3.4)(23.3.6)(23.4.7)

新植樹木（芝張り，吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から１年　・無し
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から１年　・無し

12 屋上緑化 G

(23.5.2,3)

植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示　・
排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　　）　・板状成形品
植込み用土　※改良土　・人口軽量土
樹木の樹種並びに種類，寸法，株立数，寸法等　※図示　・
見切り材，舗装材，水抜き管，マルチング材等　※図示　・

・屋上緑化軽量ｼｽﾃﾑ
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示　・
見切り材，舗装材，水抜き管，マルチング材等　※図示　・

工法
(23.5.4)
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の）風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない
支柱　・設置する（形式　・図示　・　　）
かん水装置　・設置する（種類　・　・　　）

工 事 名	R7阿南　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（担い手確保型）（若手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書（9/9）		
縮　尺	－	図面番号	2-9
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

ゲート操作室仕上表・面積表・建具表

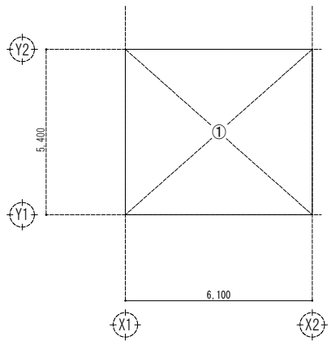
外部仕上表

屋根・・・・	折板　ガルバリウム鋼板 t=0.8　H=150　裏面ペフ張り		
外壁・・・・	ALC t=100　複層仕上塗材 RE　　換気口：アルミ製 100φ		
軒裏・・・・	折板 現し		
開口部・・・	アルミサッシ：陽極酸化塗装複合皮膜 アルミ製扉　　スチール製シャッター：焼付塗装		

内部仕上表

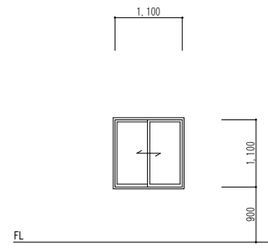
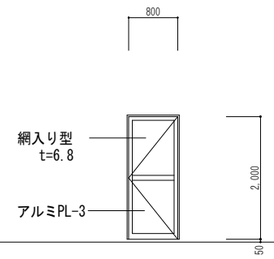
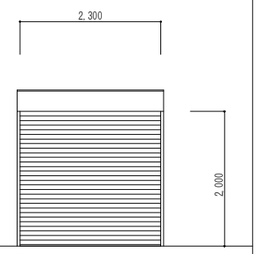
階	室名・・	床	床下地	巾木・・	壁	壁下地	天井・・	天井下地	天井高	廻り縁	備考・・
	操作室	既存床：コンクリート(既存のまま) 拡張床：C-PL(別途工事)	RC　及び　C-PL	——	ALC t=100　　フィーラー塗布	——	折板　裏面ペフ現し	——	直天	——	柱・梁は溶融亜鉛メッキ素地とする

求積図　S=1:100



建築面積	①　6.100 X 5.400 = 32.940㎡	32.94㎡
床面積	①　6.100 X 5.400 = 32.940㎡	32.94㎡

建具表　S=1:50

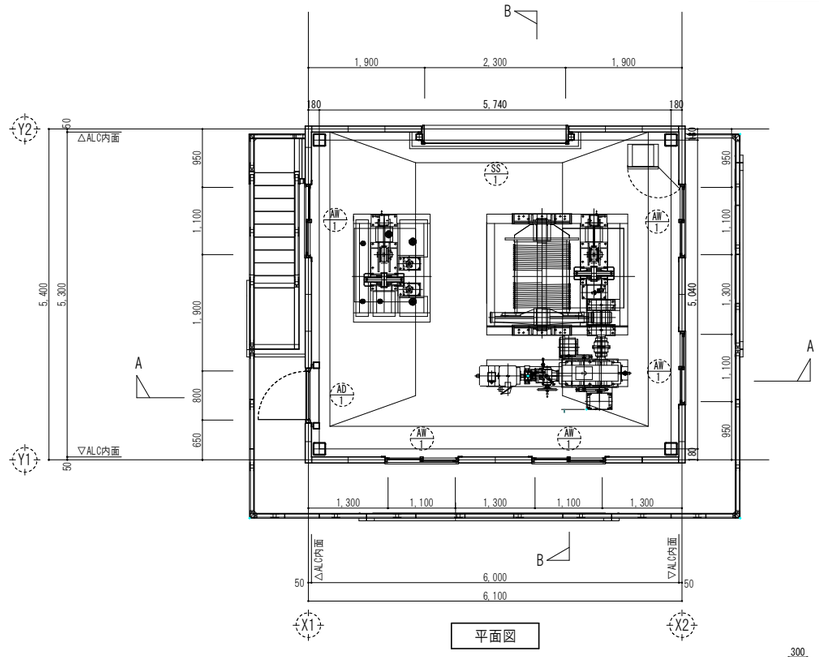
符号　名称　個数		AW 1 アルミ製引き違い窓　5カ所		AD 1 アルミ製片開き扉　1カ所	SS 1 スチール製軽量シャッター(手動) 1カ所
姿図					
場所		操作室		操作室	操作室
仕上（枠共）		アルミ　カラー(標準色)		アルミ　カラー(標準色)	焼付塗装
建具	見込				
	ガラス	網入り型　t=6.8		網入り型　t=6.8　アルミPL-3	
	ガラリ				
建具枠見込　沓摺		70		70	
建具金物		クレセント　付属金物一式　網戸		SUS丁番　レバーハンドル　本締錠　DC	シャッターボックス(スチール焼付塗装)
				下枠：SUS	ガイドレール・まぐさ：SUS　ボトム：アルミ
備考					錠付

P2・3

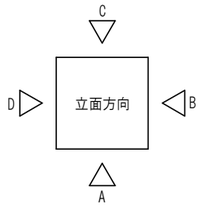
工事名	R7阿南　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（拾い手確保型）（巻手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室仕上表・面積表・建具表		
縮尺	－	図面番号	3
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

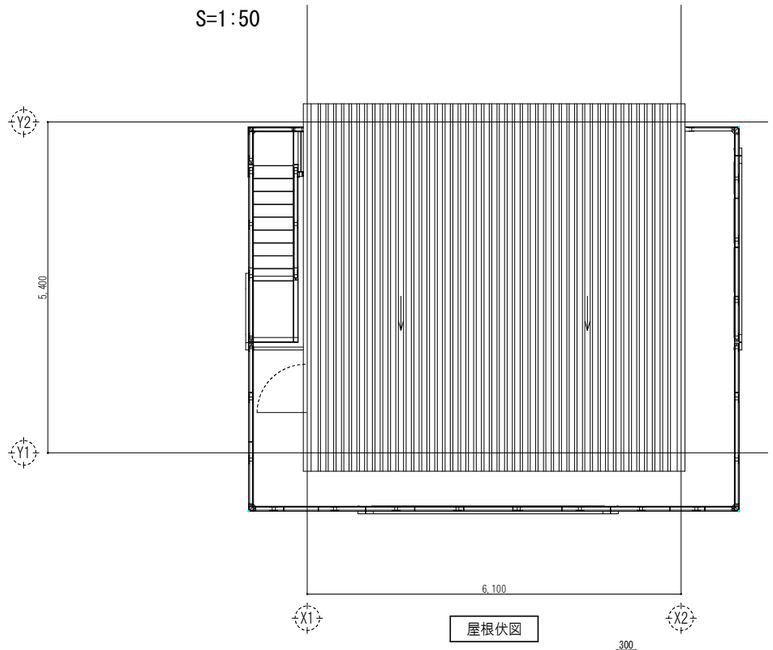
ゲート操作室平面図・立面図・断面図

S=1:50

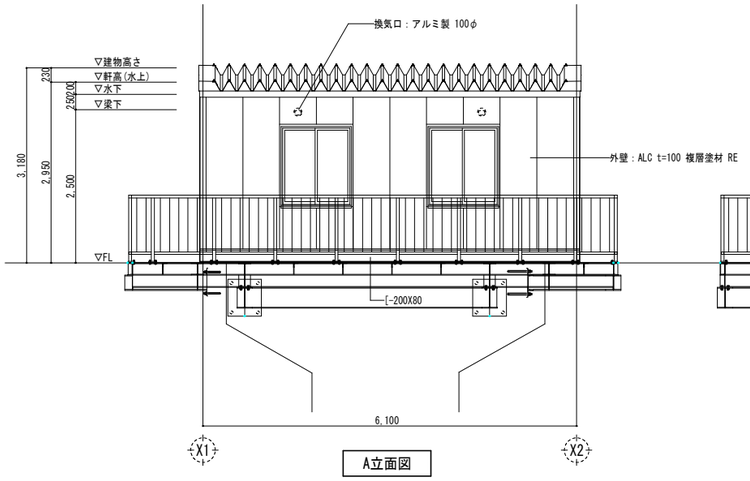


平面図

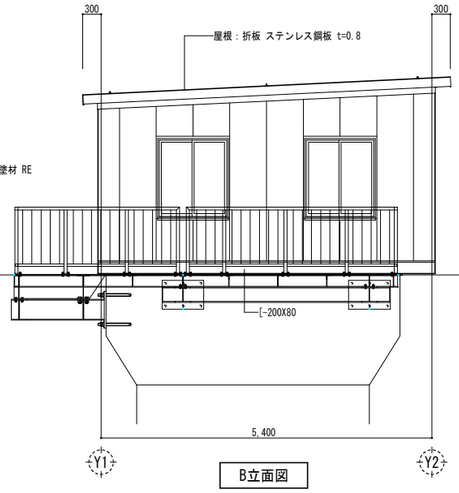




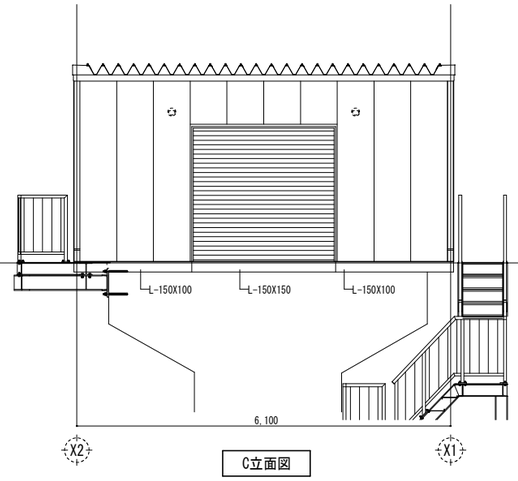
屋根伏図



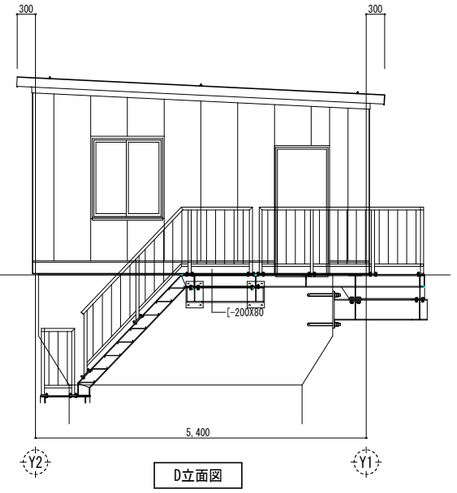
A立面図



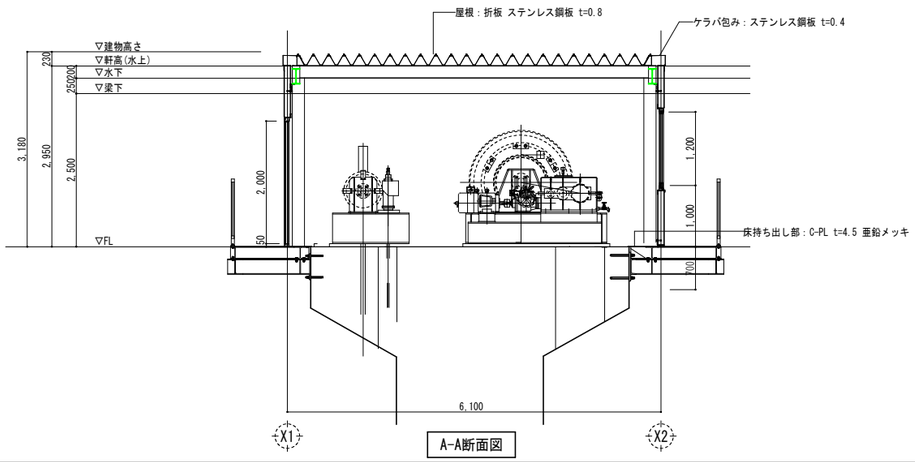
B立面図



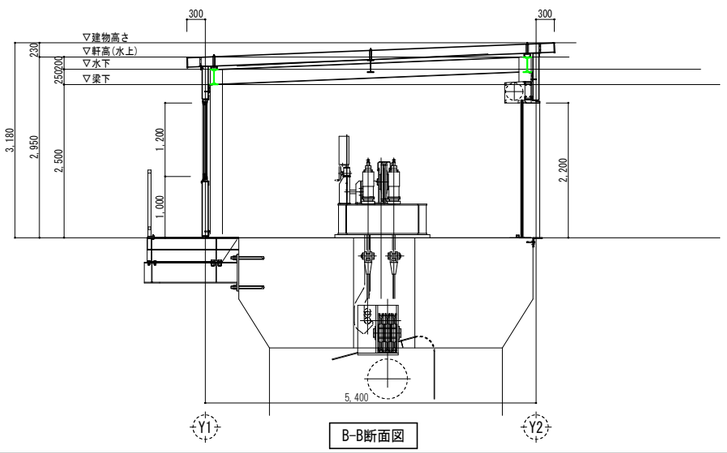
C立面図



D立面図



A-A断面図



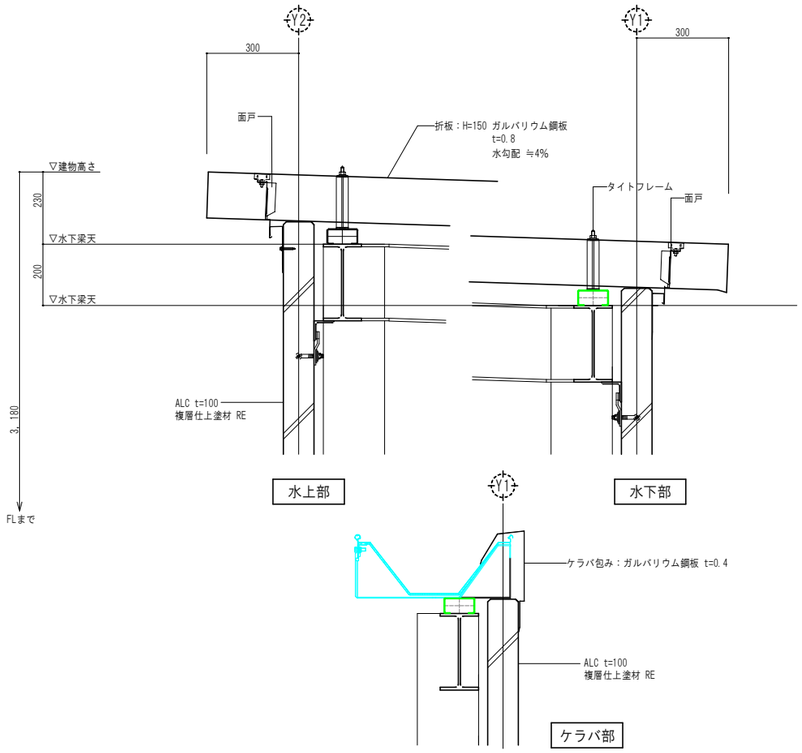
B-B断面図

P2・3

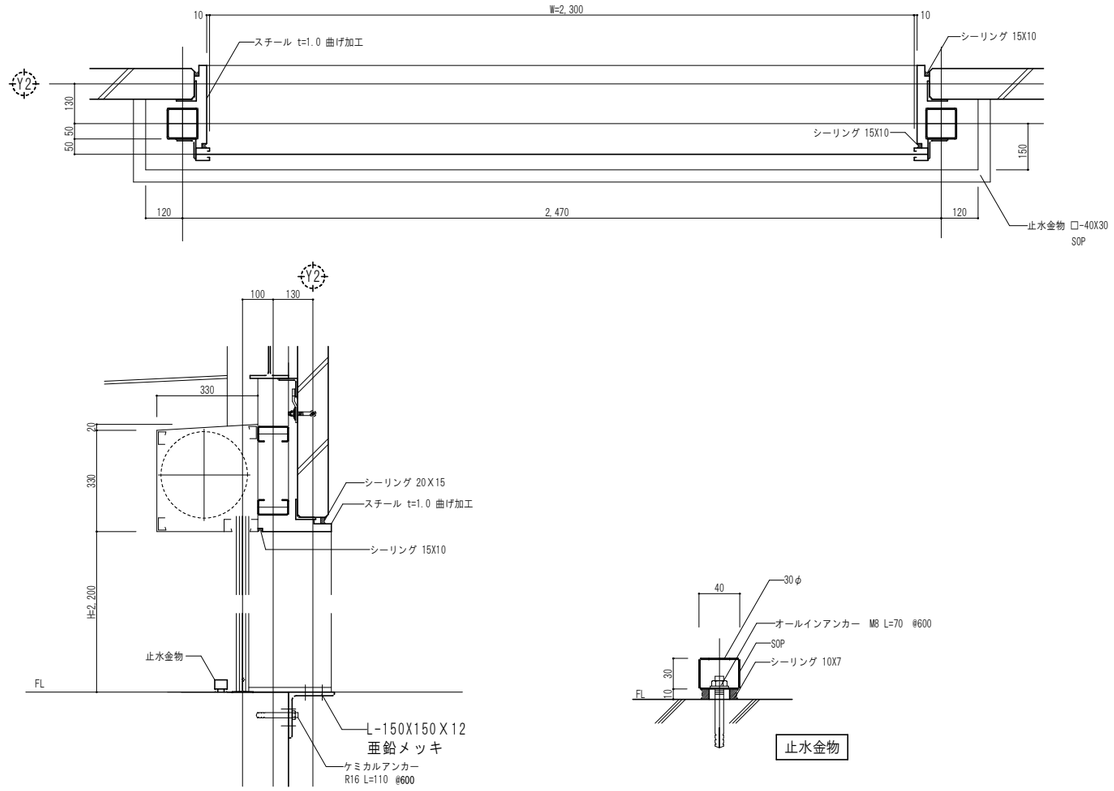
工事名	R7阿賀 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手確保型）（若手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室平面図・立面図・断面図		
縮尺	S=1:50	図面番号	4
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

ゲート操作室詳細図

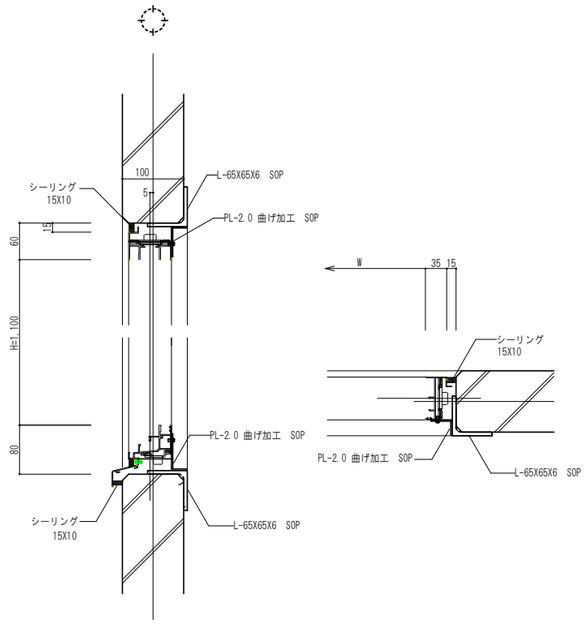
屋根詳細　S=1:10



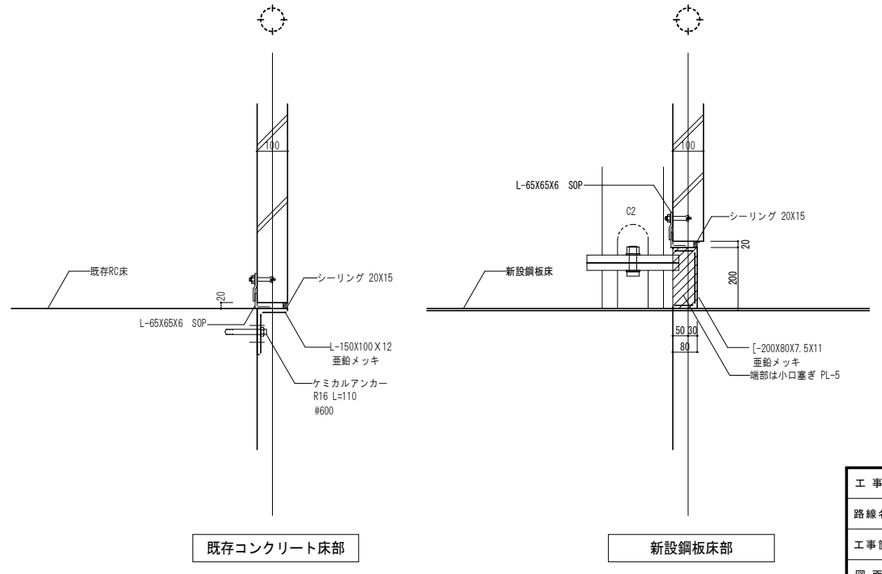
シャッター詳細　S=1:10



AW-1、AW-2詳細　S=1:5



ALC足元取付詳細　S=1:10



既存コンクリート床部

新設鋼板床部

P2・3

工事名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（総い手建保型）（希手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室詳細図		
縮尺	図示	図面番号	5
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

ゲート操作室構造設計仕様書　（標準）

適用は■印を記入する。

1.　建築物の構造内容

(1)　工事名称　Ｒ７阿耕　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（担い手確保型）（着手日指定型）
建築場所　　徳島県阿南市
(2)　工事種別　■新築　□増築　□増改築　□改築
(3)　構造種別
□鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造(RC)　□補強ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造(CB)　■鉄骨造(S)
□鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造(SRC)　□壁式ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造(WPRC)
□ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造(PRC)　□ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
(4)　階　数
地下　0　階　　地上　1　階　　塔屋　0階
(5)　主要用途　　機械室
(6)　屋上付属物
□高架水槽　kN　□室外機　kN　□避雷針　□アンテナ
(7)　特別な荷重
□ｴﾚﾍﾞｰﾀ 6人乗り (ﾛｰﾌﾟ式 油圧式) □リフト　kN □ホイスト　kN
□倉庫積載床用　N/㎡　□受水槽　kN
(8)　付帯工事
□門塀　□擁壁　□　□　□　□
(9)　増築計画　□有（　　）　■無
(10)　構造計算ルート　X方向ルート　－（ 1 ）　Y方向ルート　－（ 1 ）

2.　使用構造材料

(1)　コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質基準強度 Fq=N/mm²	ｽﾗﾝﾌﾟ cm	備考
捨てコンクリート	■普通				
土間コンクリート	■普通				
基礎、基礎梁	■普通又は高炉B種				
床・その他	■普通、□軽量				
	□普通、□軽量				
押えコンクリート	■普通、□軽量				
混和剤	ＡＥ減水剤（必要に応じて）				

■　単位水量　180kg/m3 以下、単位セメント量　270kg/m3以上とする。

(2)　コンクリートブロック(CB)
□A種　□B種　□C種　厚□100　□120　□150　□190

(3)　鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■SD295A			■重ね継手 D10～D16
	■SD345			
	□ SD390			■ガス圧接継手 D19～D32
	□			
高強度せん断補強筋	□			□特殊継手
丸　鋼	□SR235			（　　）
溶接金網	■			

(4)　鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	備考
■SS400　□SM400　□SN400A.B.C	大梁・小梁・鋼板	□有　■無	
■SS400　□SM400　□SN400A.B.C	座屈止め	□有　■無	
■STKR400　□BCP325　□	柱	□有　□無	
□SM490A　□SN490B.C.　□		□有　□無	
□SN490C	ダイアフラム	□有　■無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5)　ボルト
■普通:F10T　■特殊:S10T　認定品(□M12 ■M16 ■M20 ■M22 ■M24)
■メッキ：F8T　　高力ボルトすべり係数試験　□要　■否

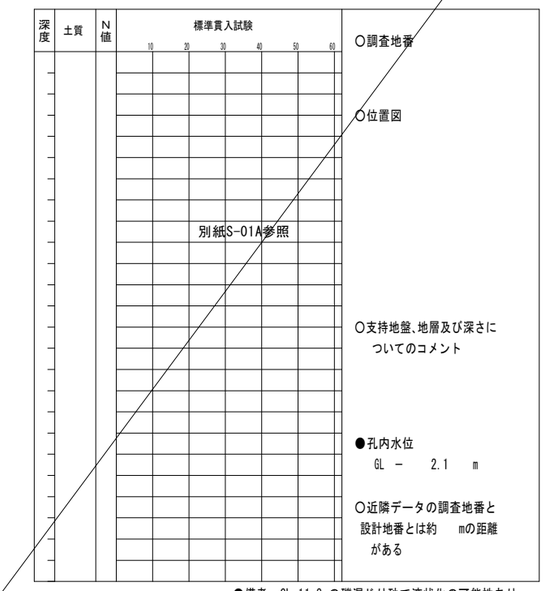
■アンカーボルト
□SS400　M12,M16　L＝　S-14参照　ナット(□シングル　□ダブル)
■ABM400(SNR400B)　M24　L＝750mm（埋込み長さ）　ナット(□シングル　■ダブル)
□頭付スタッドボルト
φ＝　L＝　mm　使用箇所(□柱　□大梁　□小梁)
φ＝　L＝　mm　使用箇所(□柱　□大梁　□小梁)

(6)　屋根、床、壁
□防火サイディング　厚
■ガルバニウム鋼板　（屋根）　H＝　mm　厚 0.8　mm
□デッキプレート　型式　厚
□キーストーンプレート　型式　厚
□特殊デッキプレート
■チェッカープレート　（床）

3.　地　盤

(1)　地盤調査資料
■有(■敷地内　□近隣)■ボーリング調査　□平板載荷試験　□水平地盤反力係数の測定
■液状化判定　□現場透水試験　■室内土質試験
□無(調査予定　□有　■無)
(2)　地盤調査計画
□ボーリング調査　□静的貫入試験　□標準貫入試験　□水平地盤反力係数の測定
□土質試験　□物理探査　□平板載荷試験　□試験堀（支持層の確認）
(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ
形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成　（基礎・杭の位置を明記すること）



●備考　GL-11.3mの礫混じり砂で液状化の可能性あり。

4.　地業工事

(1)　直接基礎
□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験堀　□有　□無
基礎深さ　GL －　m　支持層　－　風化泥岩　※S-01A 参照
長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験 □有　■無
(2)　杭基礎　支持層　－　風化泥岩

杭　種	材　料	施　工　法	備　考
□RC　□PRC □PHC　□中掘	PRC(□Ⅰ種　□Ⅱ種 □Ⅲ種) PHC(□A種 □B種 □C種)	□打ち込み □埋込み（ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法）	
■鋼管 □	鋼材　（□SS400　■STK490）	■圧入工法（G-ECS工法） □	大臣認定第　TACP-0448　号 H26　年　2　月　28　日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc　N/mm² スランプ セメント量　kN/m³ 鉄筋主筋　SD390 HOOP　SD295A	□ｵｰﾙｹｰｼｼﾝｸﾞ　□拡底杭 □(N'-ｽﾗﾑｰｼｽﾃﾑ) □ﾌﾘｰｽﾗﾑﾘﾑ　□ﾆｭｰﾌｫｰﾑ □BH　□深礎　{□手堀 □機械堀	拡底杭 日本建築ｾﾝﾀｰ認定工法 年　月　日

杭仕様　■施工計画書承認　■杭施工結果報告書
試験杭　（■有 ・ □無）　（□打ち込み　□載荷）　本

杭径(mm)	長期許容支持力(kN/m2)	短期許容支持力(kN/m2)	本数	特記事項
φ267.4	721.00	1442.00	2	
φ216.3	498.25	996.50	12	

(3)　基礎梁　捨てコン　t＝50mm　敷砂利　t＝50mm
基礎　捨てコンのみ　t＝50mm　敷砂利　t＝50mm

5.　鉄筋コンクリート工事

(1)　コンクリート
■　コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工にはJASS5(2015)による。
■　耐久設計基準強度　Fd 18　■短期　□標準　□長期
■　セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■　調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■　寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■　フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センター の技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録 及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
■　構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごとを採取とする。
また、打ち込み量が150m³を超える場合は、150m³ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運 搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
■　ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
(2)　鉄　筋
■　鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5(2015)による。
□　高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号適合品とする。
■　鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「配筋基準共通事項」、「配筋基準」または「壁式配筋基準」による。
■　D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
■　継手部の施工要領は 社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
外観検査　■有　□無、引張試験　■有（5本/ロット）　□無、超音波試験　□有　■無
超音波試験の場合、最初の数ロットは引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。
（1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200ヵ所程度とする。）
■　柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、■H型　（タ ガ型 ）　□W型（溶接型）
□S型　（スパイラル型 ）とする。
■　コンクリート及び鉄筋の試験は、公的機関とし
設計者･工事監理者の承認を受けた機関及び代行者とする。

(2)　型　枠
■　材料　合板厚　12m/mを標準とする。　■施工はJASS5による。
■　型枠存置期間

種類 / 部位	せき板				支柱		
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下
セメントの種類	早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄA種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種	早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄA種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種	早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄA種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種	早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄA種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種
存置期間の平均気温							
コンクリートの材令(日) 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
15℃～5℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

注）1　片持はり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）2　大ばりの支柱の盛りかえは行わない、また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）3　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4　盛りかえ後の支柱項部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5　支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）6　上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。

6.　鉄骨工事

(1)　鉄骨工事は指示のない限り下記による
■日本建築学会　「JASS6」　「鉄骨精度検査基準」　「鉄骨工事技術指針」
□鋼材倶楽部　「建築鉄骨工事施工指針」
□
(2)　工事監理者の承認を必要とするもの
■認定または登録工事（ M　グレード　都登録　ランク）
■材料規格証明書または試験成績書
■製作工場　■製作要領書　■工作図　■施工計画書
■社内検査表　□
■鋼材　■高力ボルト　□特殊ボルト　■頭付スタッド
(3)　工事監理者が行う検査項目
（□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□建方検査　■工作図　□
□現寸検査　□組立・開先検査　■製品検査
(4)　接合部の溶接は下記によること
□鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要網（建築構造設計指針第12章）
■日本建築学会「鉄骨工事技術指針 ・ 工事現場施工編」
□日本建築学会「溶接工作基準、同解説 Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

(5)　接合部の検査
■溶接部の検査溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備考
■完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100 (%)(直)	20 %(抜)	% 個	1ロットは220ケ所とする。
■隅肉溶接	外観（目視）検査	100 (%)	20 (箇)	%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関名とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注1)　現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行う事。
注2)　現場溶接部は、超音波探傷試験を100%行う事。

■高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮など
を座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
■高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
(6)　防錆塗料
■防錆塗料の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、JIS K5674、2回塗りを標準とする。
■現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
■屋外鉄骨は溶融亜鉛メッキとする
(7)　耐火被覆の材料（耐火被覆を施す場合は錆止め塗装は不要）
□

7.　設備関係

■　特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■　床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
■　設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。

8.　その他

■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

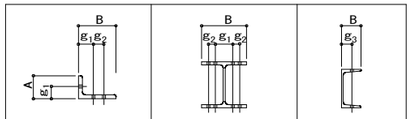
※全てのゲート操作室に共通

工事名	Ｒ７阿耕　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（担い手確保型）（着手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図面名	ゲート操作室構造設計仕様書		
縮　尺	－	図面番号	6
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

ゲート操作室鉄骨基準

高力ボルト　・　ボルトの特記事項

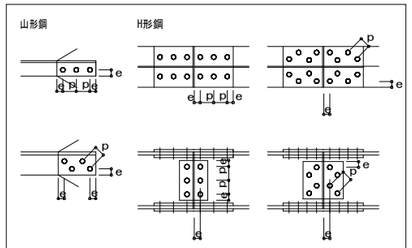
1. 形鋼のゲージ( )と最大軸径( )　d



A, B	g_1	g_2	d	B	g_1	g_2	d	B	g_3	d
40	22		10	※100	60		16	40	24	10
45	25		12	125	75		16	※50	30	16
※50	30		16	150	90		22	65	35	20
60	35		16	175	105		22	70	40	20
65	35		20	200	120		24	75	40	22
70	40		20	250	150		24	80	45	22
75	40		22	※300	150	40	24	90	50	24
80	45		22	350	140	70	24	100	55	24
90	50		24	400	140	90	24			
100	55		24							
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

(注)　1) ※印のB=300は千鳥配置とする。
　　2) ※※印欄のg_2及び最大軸径の値は強度上支障がないとき、最小縁距離の規定にかかわらず用いることができる。

2. ピッチ・縁距離



※　大梁継手はSCSS-H97に準ずる。

軸径　d			16	20	22	24
ピッチ p	標　準		60	70	80	90
	最　小		40	50	55	60
縁端距離 e	標　準		40	40	40	45
	最　小	(1)	28	34	38	44
		(2)	22	26	28	32

(注)　1)　e：(1)は、せん断縁、手動ガス切断縁の場合の縁端距離
　　(2)は、圧延縁、自動ガス切断縁、のこ引縁、機械仕上縁の場合の縁端距離
　　2)　ボルトピッチ、縁端距離を変更する場合は、監理者と協議すること。

3. 孔径

ボルトの種類	孔 径 D	軸径dの範囲
高力ボルト	d ＋ 2	d ＜ 27
	d ＋ 3	d ≧ 27
ボルト	d ＋ 0.5 (注)	
アンカーボルト	d ＋ 5	

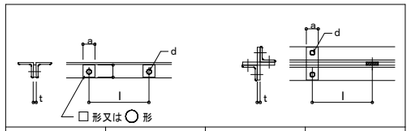
(注) 母屋、胴縁類の取付け用ボルトの場合は、d＋1．0とすることができる。

4. 接合の精度

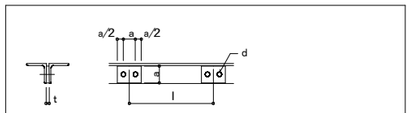
名　称	図	許容差
孔の心ずれ e	設計ボルト心	e ≦ 1mm
孔相互の間隔 ⊿p	p+⊿p	−1 mm ≦ ⊿p ≦ +1mm
孔の食違い e	e	e ≦ 1mm
高力ボルト接合の肌すき e	e	e ≦ 1mm
孔のはしあき・へりあき ⊿a	a1+⊿a1, a2+⊿a2	⊿a1 ≧ −2 mm ⊿a2 ≧ −2 mm かつ「鋼構造設計規準」「高力ボルト接合設計施工ガイドブック」の最小縁端距離を満足すること。

上記は、JASS6　2007年版の管理許容差を示す。

5. 圧縮部材のはさみ板



部材	最大間隔 ≦l	はさみ板 a	軸径 d
2Ls－50×50×6	450	50	※12
2Ls－60×60×5	550	50	※12
2Ls－65×65×6	600	60	16
2Ls－75×75×6	700	60	16



部材	最大間隔 ≦l	はさみ板 a	軸径 d
2Ls－90×90×7	850	70	20
2Ls－100×100×10	950	70	20

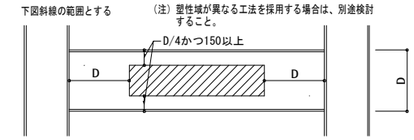
注)　1)　はさみ板を配置する部材は別図に表示。
　　2) はさみ板厚は原則として圧縮部材の仕口、継手等のGPLと同じとする。
　　3) ※印は強度上支障がないとき、軸径16mmを用いることができる。

貫通孔補強

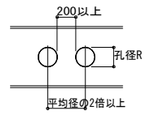
採用タイプ

ここでは基本原則を示し、実際の補強詳細は施工図により設計担当者と協議の上決定する。

■ 貫通孔の設置範囲

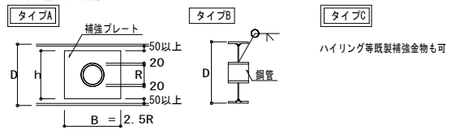


■ 貫通孔の間隔



(注) 1) 孔の形状は円形を原則とする。
　　2) 孔径Rは梁成の1/2以下
　　3) 1本の梁に設ける貫通孔の数は制限しないが設計担当者と協議のこと。

■ 貫通孔の補強



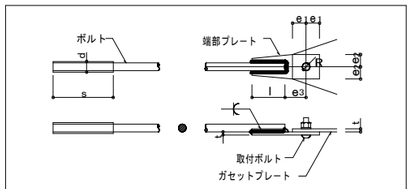
梁 成 (D)	孔 径 (R)	タイプA 補強ﾌﾟﾚｰﾄ(t×h×B)	タイプA 材 質	タイプB 補強ﾌﾟﾚｰﾄ(t×h×B)	タイプB 材 質
700	300 350	2×(9×500×700)			
600	300	2×(9×440×600)			
588	300	2×(9×440×600)			
500	250	2×(9×400×500)			
450	200	2×(9×360×450)			
400	200	2×(6×300×400)			
300	150	1×(9×200×300)			

補強PLの材質は母材と同材とする。

筋違(建築用ターンバックルボルト・胴)

1. 羽子板ボルト

JIS A 5542



ねじの呼び d	調整ねじの長さ (最小) s	溶接の長さ (最小) l	端部プレート(最小) はしあき e1	へりあき e2 切板	へりあき e2 平鋼	※ e3	厚さ t	取付高力ボルト 孔径 R	本数
M12	100	40	35	22	19	47	4.5	13	1-M12
M16	125	55	45	28	25	59	6	17	1-M16
M20	150	75	50	34	32.5	66	9	21.5	1-M20
M24	175	85	50	38	37.5	70	9	21.5	2-M20

(注)　1) ※ ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)
　　2) 溶接のビード幅はt/2以上とする。

2. ターンバックル胴

JIS A 5541

	割枠式	パイプ式
記号		
形状	A A L	A A L

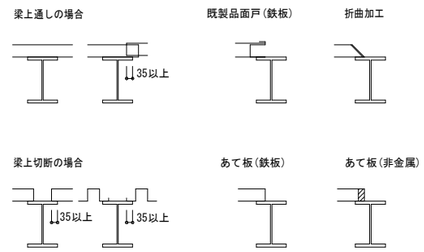
ねじの呼び	寸法 胴の長さ L	寸法 有効ねじ部の長さ A	割枠式 質量 kg
M12	200	≦17	≦0.300
M16	250	≦23	≦0.640
M20	300	≦28	≦1.200
M24	350	≦34	≦2.090

注)　羽子板ボルト、ターンバックル胴の材質はJISによる。
　　パイプ式胴には重量規定なし。

デッキプレート関係

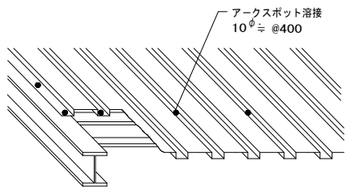
1. 受梁へのかかり寸法及び端部処理

※S-24を優先とする。

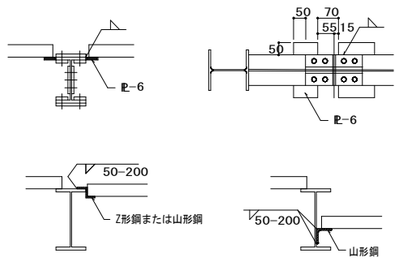


2. 梁との溶接及びコネクター

※S-24を優先とする。



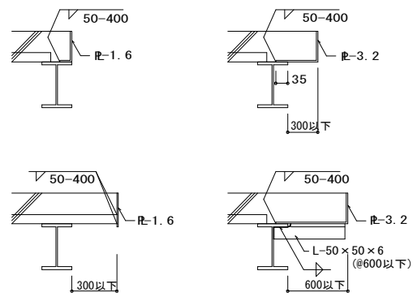
3. 補足受材



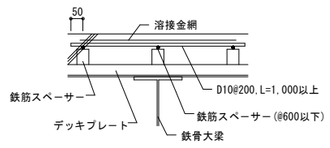
4. コンクリートスラブの補足事項

＊ デッキ敷き込み直交方向は、設計担当者の指示による（別途検討要）。

スラブ端部の補足材(鋼板を使用する場合)



5. 大梁上ひびわれ防止筋　(合成デッキスラブ及びフラットデッキスラブの場合)



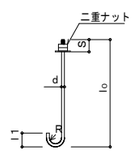
鉄筋貫通のための孔径

鉄筋の公称径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔	21	24	28	31	35	38	43	46

(注)　貫通孔は工作図に基づき、工場においてドリルあけとする。

アンカーボルト標準寸法

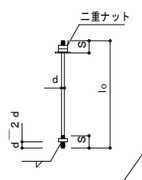
J 形



下記外はＪＩＳ　Ｂ　１１７８を準用する。

ねじの呼称 d	寸法 S	寸法 l1	寸法 R	寸法 l0	備考
M12	80	56	25	450	
M16	80	71	32	550	
M20	100	90	40	700	
M24	100	112	50	800	
M30	100	140	63	950	

I 形



下記外はＪＩＳ　Ｂ　１１７８を準用する。

ねじの呼称 d	寸法 S	寸法 l0	備考
M12	80	450	
M16	80	550	
M20	100	700	
M24	100	800	
M27	100	910	
M30	100	950	

工 事 名	R7阿南　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（担い手建築型）（落手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図 面 名	ゲ ー ト 操 作 室 鉄 骨 基 準		
縮　尺	－	図面番号	7
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

ゲート操作室溶接基準

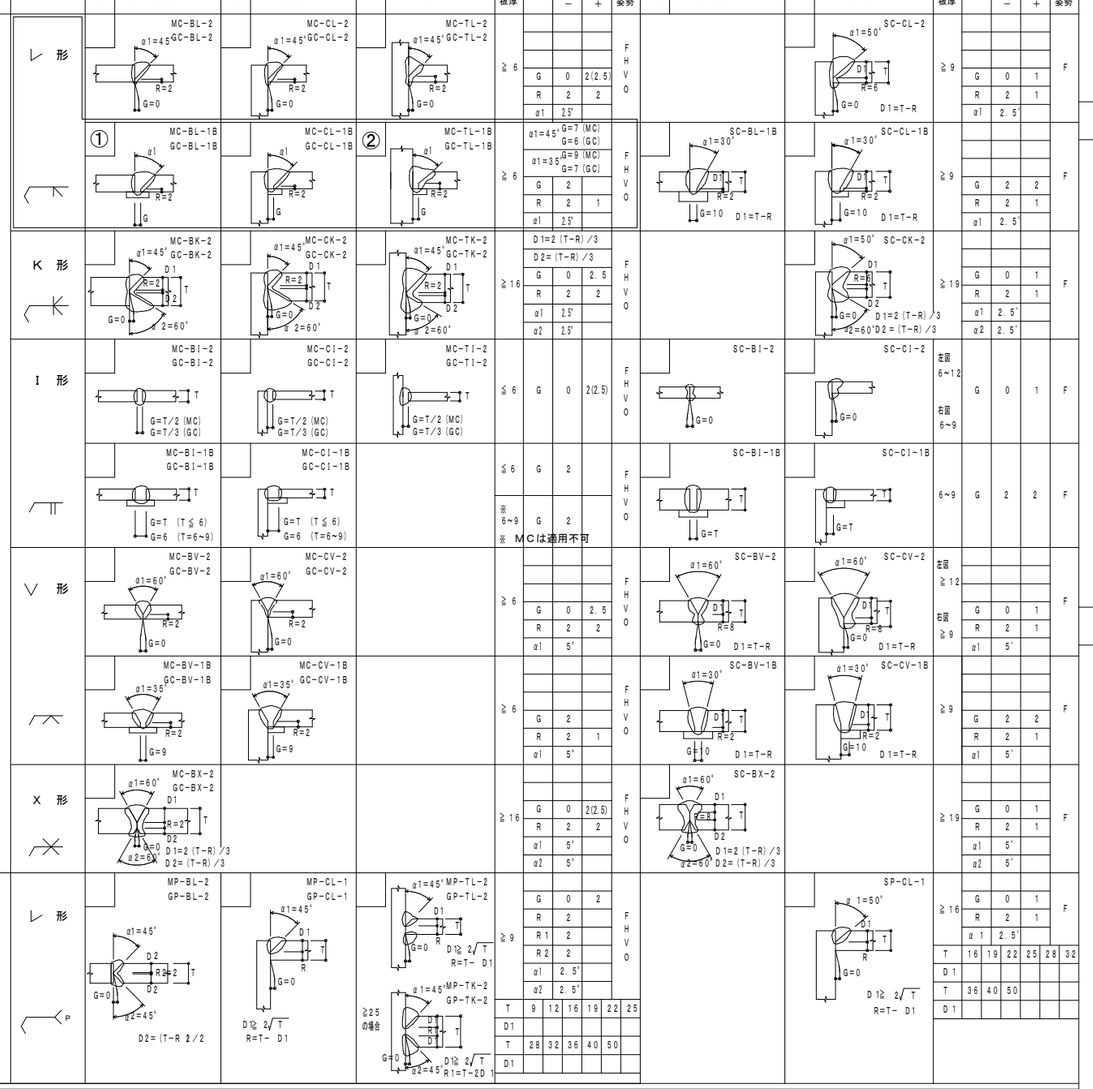
1．　適用範囲

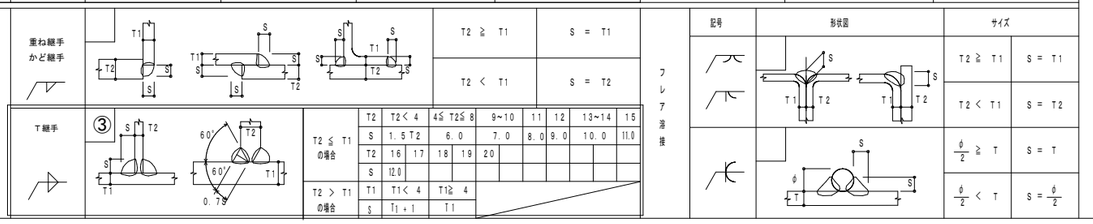
■ 本基準図は鉄骨の工場溶接・工事現場溶接を行う場合に適用する。

2．　溶接継手の方法及び形状寸法

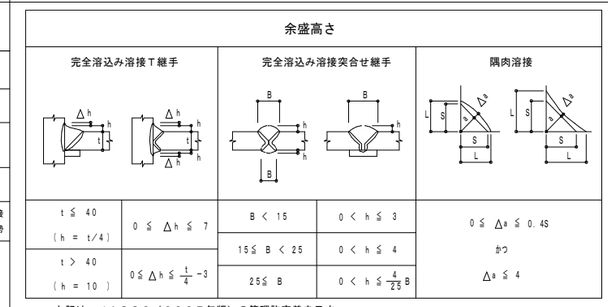
■ 部分溶込み溶接及び隅肉溶接の形状寸法は設計者が記入するものとする。
■ 適用板厚は５０ｍｍ以下とする。
■ 寸法の単位は全てｍｍとする。

溶接方法	M　アーク手溶接	G　ガスシールドアーク半自動溶接	S　サブマージアーク溶接
■ 開先に対する条件	■ アーク手溶接の場合、初層に使用する棒径は2.6~5.0としルート間隔、板厚及び溶接姿勢により使いわけるものとする。 ■ 完全溶込み溶接の裏当て金のない開先は裏はつりを行う。		■ 完全溶込み溶接の裏当て金のない開先は裏はつりを行う。 ■ 溶接装置は最大容量１０００Ａの Ｉ 電極とする。



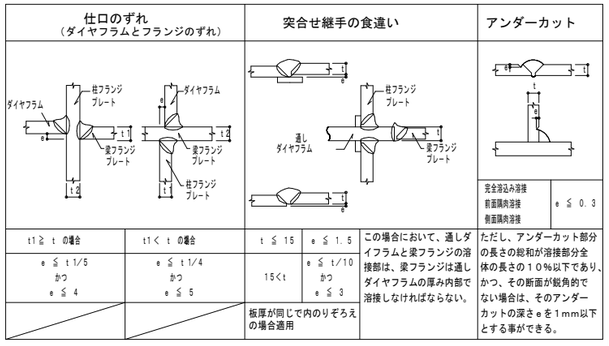


3．　溶接部の余盛高さ



上記は、ＪＡＳＳ６（２００７年版）の管理許容差を示す。

4．　溶接部の寸法許容差

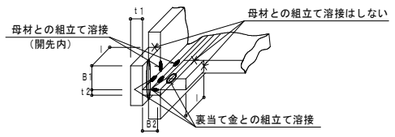


■ 上記は、「鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件」（平成１２年５月３１日建設省告示１４６１号）による。
■ 上記項目の測定要領は、「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」（独立行政法人建築研究所監修２００３年度版）に準拠し、許容差を超えた場合には設計者・監理者に速やかに報告し、その対応・補修について協議すること。
■ 上記項目の測定要領は、「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」（独立行政法人建築研究所監修２００３年度版）に準拠し、許容差を超えた場合には設計者・監理者に速やかに報告し、その対応・補修について協議すること。

5．　溶接止端部の処理及び裏当て金

1）　完全溶込み溶接

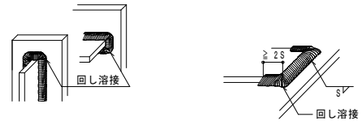
■ 原則として鋼製エンドタブを使用する。代替エンドタブを使用する場合は監理者の承認を得ること。
ただし、回し溶接工法などにより健全な溶接部が得られると認められる場合は省略することができる。
■ エンドタブは直接母材に組立て溶接しない。
ただし、組立て溶接を再溶融させる場合は開先内に組立て溶接を行ってもよい。
■ 鋼製エンドタブ及び裏当て金の材質　（ ○SM490A ● 母材と同材 ）
■ 鋼製エンドタブを使用する場合の寸法形状は下記を標準とする。



溶接方法	エンドタブ			裏当て金	
	l	B1	t1	B2	t2
手	30~50	30~50	母材と同厚	≧ ２５	9
半自動	40~60				9
自　動	50~100				12

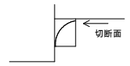
2）　隅肉溶接

■ 角部においては原則として回し溶接を行う。



3）　エンドタブの除去

■ 部材ランクＣ*の完全溶込み溶接部に設けたエンドタブは除去すること。
但し、設計者・工事監理者の承認を得て省略することができる。
■ 部材ランクＡ*及びＢ*の完全溶込み溶接部に設けたエンドタブに関しては、耐火被覆及びコンクリート等で覆われる場所は原則として除去しない。
ただし、鉄筋と干渉する場合及び仕上塗装する場合は５．０mmを残して切断し、平滑に仕上げる。この場合し形切断となる部分は曲線形に行う。



4）　スカラップ

■ スカラップを設ける場合は溶接作業に支障のない寸法形状とする。
■ 柱・梁接合部のスカラップ加工　●工場溶接部　（● ノンスカラップ　○ 複合円型スカラップ）
○現場溶接部　（○ ノンスカラップ　○ 複合円型スカラップ）

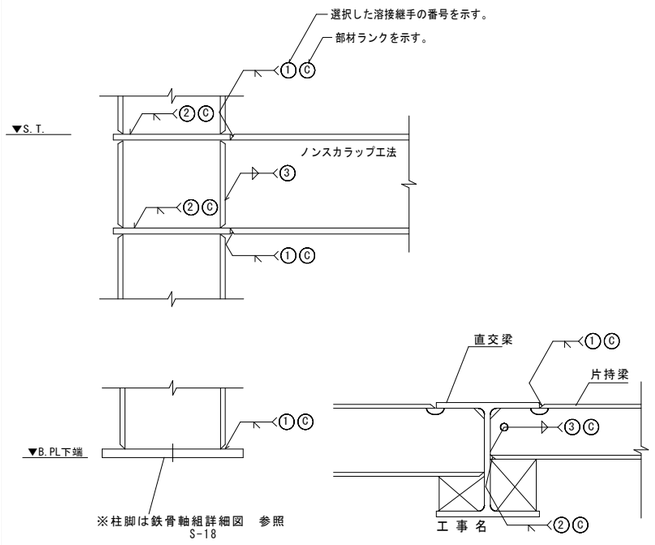
6．　ガスシールドアーク溶接法による完全溶込み溶接部の条件・管理

４００Ｎ／mm² 級および　４９０Ｎ／mm² 級鋼材の場合***

部材ランク*	溶接条件		溶接管理
Ａ	規定なし		規定なし
Ｂ	入熱４０ｋＪ／ｃｍ以下、かつパス間温度350℃以下**		施工要領書に、（１）溶接姿勢、ワイヤ径、標準的な溶接速度等を考慮した溶接電流・電圧の設定、（２）溶接作業の中断・再開時のパス間温度管理について明記すること。
Ｃ	ＹＧＷ－１１***	（下記以外の４００Ｎ級鋼） 入熱４０ｋＪ/cm以下、かつパス間温度350℃以下**	施工要領書に、（１）溶接姿勢、ワイヤ径、（２）入熱（溶接電流・電圧、溶接速度）、パス間温度、（３）入熱・パス間温度の検査方法、抜取率、（４）溶接作業の中断・再開時のパス間温度管理、について明記すること。 規定の溶接条件に基づいて溶接された印として、溶接技能者が溶接部近傍にサインを行い、溶接技術者がそれを確認すること。
	ＹＧＷ－１５***	（４００Ｎ級ＳＴＫＲ・ＢＣＲ・ＢＣＰ鋼） 入熱３０ｋＪ/cm以下、かつパス間温度250℃以下**	
		（４９０Ｎ級鋼） 入熱３０ｋＪ/cm以下、かつパス間温度250℃以下**	
	ＹＧＷ－１８***	（下記以外） 入熱４０ｋＪ/cm以下、かつパス間温度350℃以下**	施工要領書に、（１）溶接姿勢、ワイヤ径、標準的な溶接速度等を考慮した溶接電流・電圧の設定、（２）溶接作業の中断・再開時のパス間温度管理、について明記すること。
	ＹＧＷ－１９***	（４９０Ｎ級ＳＴＫＲ・ＢＣＲ・ＢＣＰ鋼） 入熱３０ｋＪ/cm以下、かつパス間温度250℃以下**	

*　部材ランクＡ：原則的に、極めて稀な大地震でも塑性化の恐れのない部材。２次部材等。
部材ランクＢ：原則的に、柱・大梁等の主要耐震要素で、極めて稀な大地震でもほぼ弾性的な挙動をする部材
部材ランクＣ：原則的に、柱・大梁等の主要耐震要素で、極めて稀な大地震で十分な塑性変形能力を期待する部材
**　ただし、溶接金属の機械的性質を確保できる入熱または パス間温度で、施工試験により確認されている場合は、施工要領書に明記することにより、それを規定値とすることができる。
***　４９０Ｎ／mm² を超える部材、または上記以外のソリッドワイヤーを使用する場合の溶接条件・管理方法については、別途定めることとする。

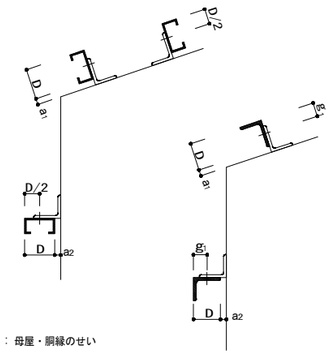
溶接要領



工 事 名	R7阿波　耐震対策　一の堰　操作室改修工事（担い手確保型）（基手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図 面 名	ゲート操作室溶接基準		
縮　尺	－	図面番号	8
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

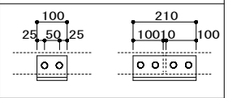
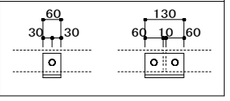
ゲート操作室母屋・胴縁関係

1. 取付方向及び取付位置



D ： 母屋・胴縁のせい
g1 ： 標準ゲージ
a1 ： 母屋の肌すき寸法　10~25
a2 ： 胴縁の肌すき寸法　10~25

2. 取付部材(ピース)の寸法

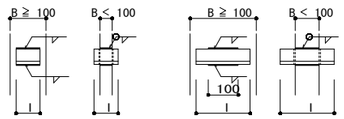
		取付部材(ピース)
母屋・胴縁のせい (D)	65	L- 75× 75×6
	75	L- 90× 90×7
	90	L-100×100×7
	100	L-100×100×7
	120	L-120×120×8
取付ボルト (孔径は軸径+1)	2-M12	
	1-M16	

3. 取付部材(ピース)の接合

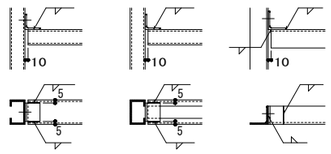
梁、柱に取付く場合の溶接

ピースの長さ　l≦100　　ピースの長さ　l>100

B: 梁、柱の幅

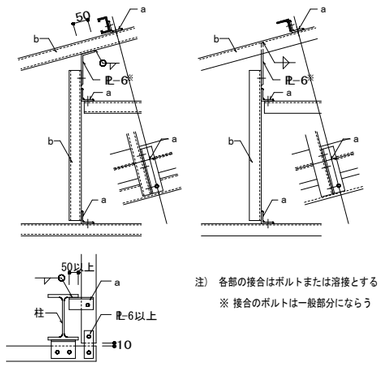


胴縁(母屋)相互に取付く場合の溶接



4. のぼり胴縁付近及び壁の出隅部

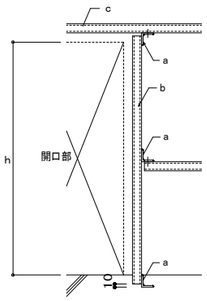
a材 ： 使用するボルト，部材は一般部分にならう
b材 ： 部材は一般胴縁に同じ



注） 各部の接合はボルトまたは溶接とする
※ 接合のボルトは一般部分にならう

5. 壁開口周辺部

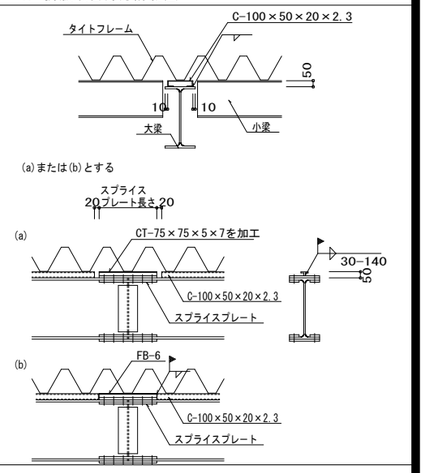
a材 ： 使用するボルト，部材は一般部分にならう
b材 ： 一般胴縁に同じ、ただしh＞2,000の場合は断面リストによる
c材 ： 断面リストによる



注） 各部の接合はボルトまたは溶接とする

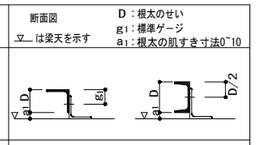
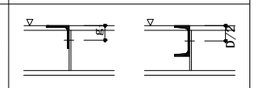
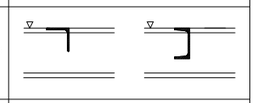
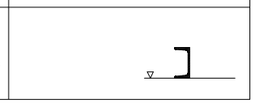
折版取合関係

1. 折版取合部分詳細図

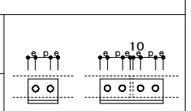


根太関係

1. 取付位置及び取付寸法

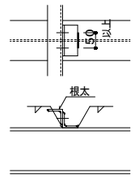
取付方法		断面図 (▽ は梁天を示す)	D：根太のせい g1：標準ゲージ a1：根太の肌すき寸法0~10
ボルト使用	梁上通し形		
	切断形		
溶接	切断形		
	梁上通し形		

2. 取付部材の寸法(ボルト使用の梁上通し形の場合)

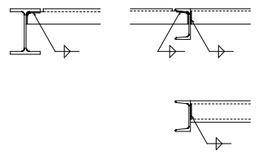
		取付部材(ピース)
根太のせい (D)	50	L- 50× 50×6
	60	L- 60× 60×5
	65	L- 75× 75×6
	75	L- 75× 75×6
	90	L- 90× 90×7
	100	L- 90× 90×7
	125	L-100×100×7
取付ボルト	2-M12	p=50 e=25 
	2-M16	p=60 e=35
	2-M20	p=70 e=40

3. 取付部材と梁の接合

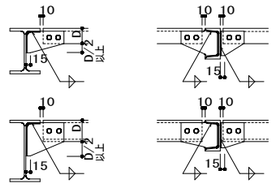
梁の上面(フランジ)に取付ける場合



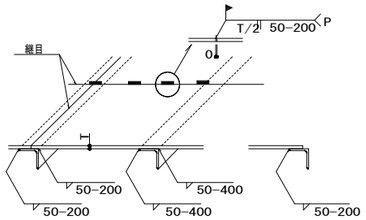
梁の側面に取付ける場合(直接根太を溶接する場合)



梁の側面に取付ける場合(ガセットプレートを介する場合)



4. 鋼板及び縞鋼板の継目の溶接

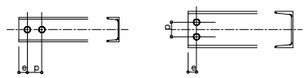


根太・つなぎ材の仕口

1. 山形鋼　(SS400)

部材	接合部 H.T.B	接合部 G.LP	接合部 e	接合部 p
L- 50×50×6	2-M12	6	35	60
L- 60×60×5	2-M12	6	35	60
L- 65×65×6	2-M16	6	35	60
L- 75×75×6	2-M16	6	35	60
L- 90×90×7	2-M20	9	40	70

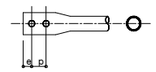
2. 溝形鋼　(SS400)



タイプA　　タイプB

部材	接合部 H.T.B	接合部 G.LP	接合部 e	接合部 p	タイプ
[-100×50×5	2-M16	6	35	60	A
[-125×65×6	2-M16	6	35	60	A
[-150×75×6.5	2-M16	6	35	60	B
[-180×75×7	2-M20	9	40	70	B
[-200×80×7.5	2-M20	9	40	70	B

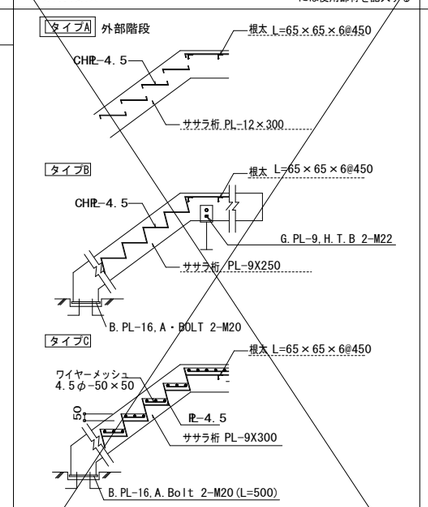
3. 鋼管　(STK400)



部材	接合部 H.T.B	接合部 G.PL	接合部 e	接合部 p
φ-48.6×3.2	2-M16	6	35	60
φ-60.5×3.2	2-M16	6	35	60
φ-76.3×3.2	2-M16	6	35	60

鉄骨階段

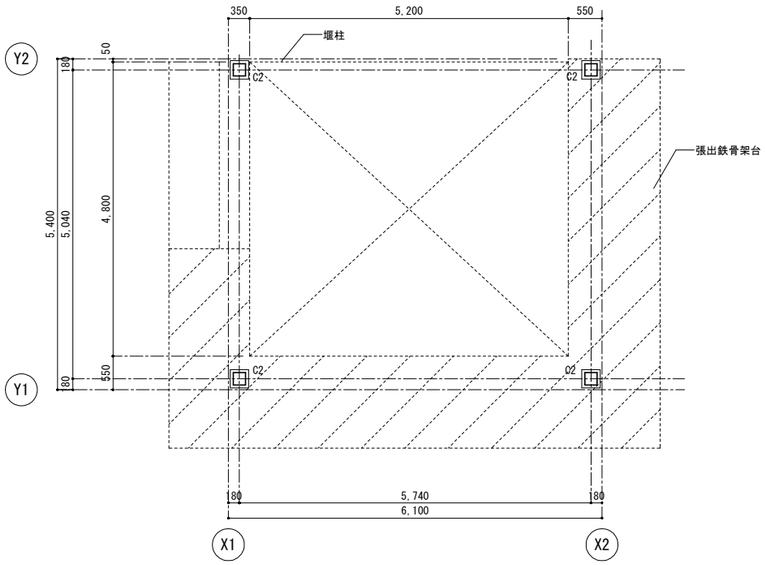
採用タイプ
---------- には使用部材を記入する



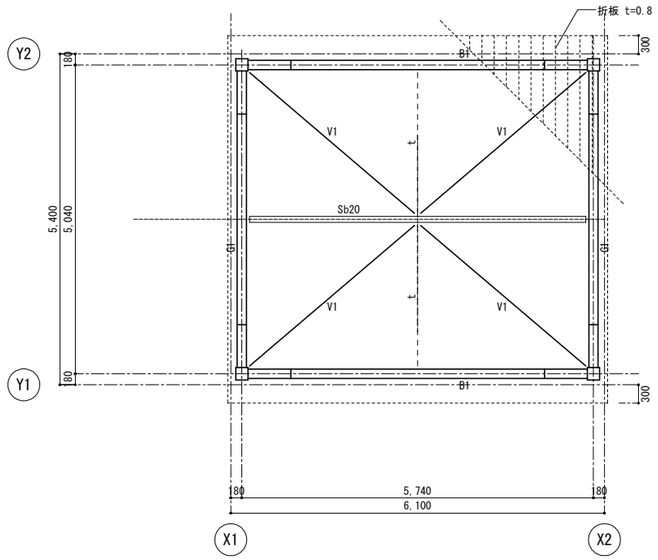
工事名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手確保型）（若手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室母屋・胴縁関係		
縮尺	-	図面番号	9
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(1/2)

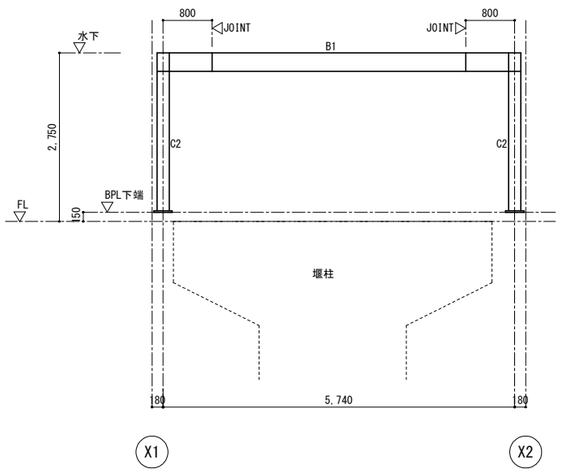
S=1:50



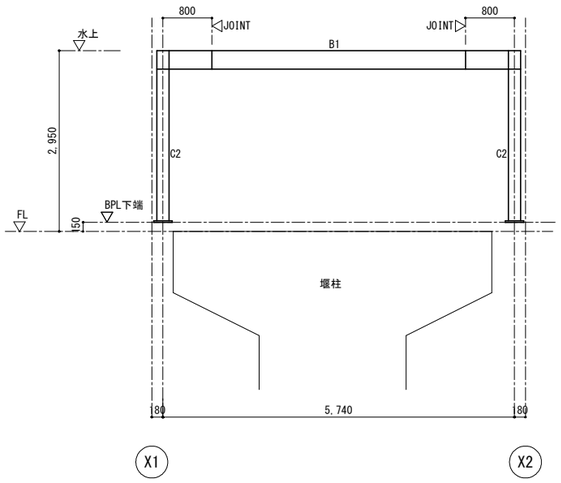
基礎伏図　S=1:50(A1) S=1:100(A3)



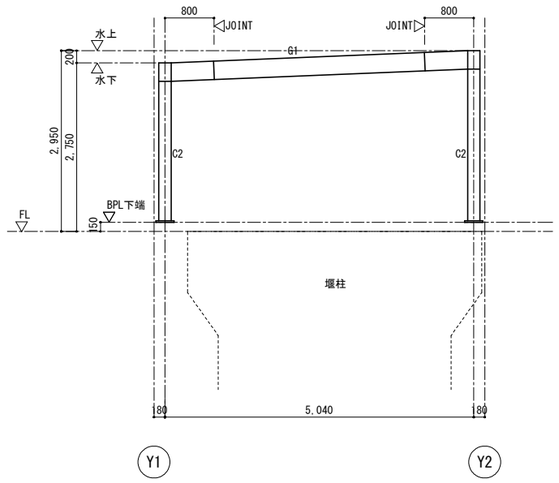
基礎伏図　S=1:50(A1) S=1:100(A3)



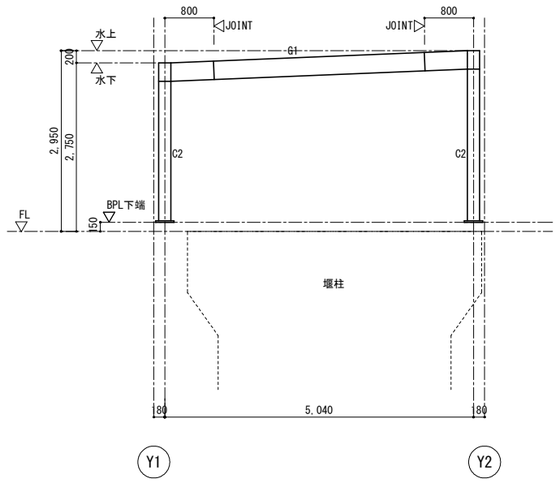
Y1通軸組図　S=1:50(A1) S=1:100(A3)



Y2通軸組図　S=1:50(A1) S=1:100(A3)



X1通軸組図　S=1:50(A1) S=1:100(A3)



X2通軸組図　S=1:50(A1) S=1:100(A3)

P2・P3

工事名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手確保型）（若手日指定型）		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(1/2)		
縮尺	S=1:50	図面番号	10-1
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

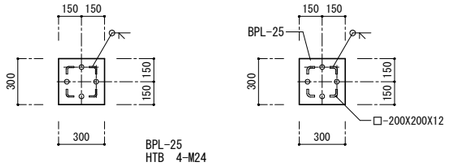
ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(2/2)

S=1:50

鉄骨部材断面表

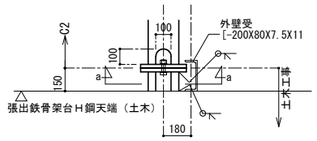
共通事項　特記なき限り下記とする。
1.鋼材はSS400とする。
2.高力ボルトは、全てＨＴＢ(F10T又は、S10T)とする。
外部露出溶融亜鉛メッキの場合はＨＴＢ(F8T)とする。

種 別	符 号	部 材	仕 口	備 考
柱	C2	□-200×200×9		STKR400
大梁	B1,G1	H-300×150×6.5×9		
小梁	Sb20	H-200×100×5.5×8	GPL-6, HTB 2-M16	
ブレース	V1	1-M20	GPL-9, HTB 1-M20	
座屈止	t	C-100X50X20X2.3	GPL-6, HTB 2-M16	



C2

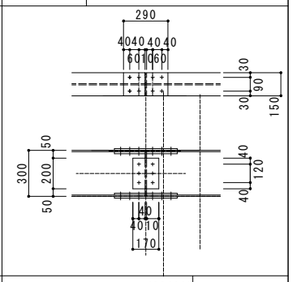
a-a SEC



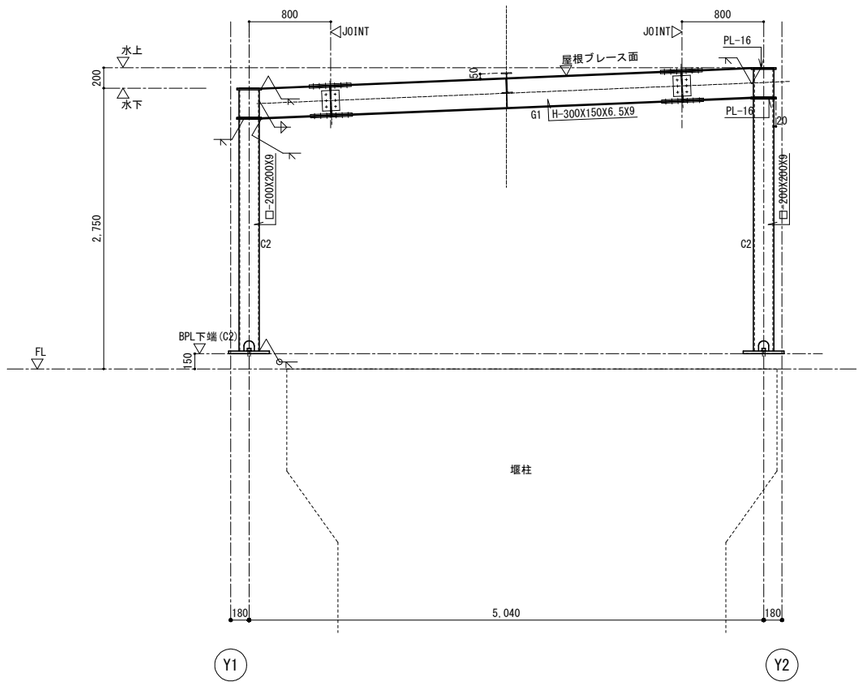
大梁継手断面表

S=1:20(A1)
S=1:40(A3)

共通事項　特記なき限り下記とする。
1.高力ボルトは、全てＨＴＢ(F10T又は、S10T)とする。
外部露出溶融亜鉛メッキの場合はＨＴＢ(F8T)とする。
2.SPLはSS400とする。

部 材		B1,G1	H-300×150×6.5×9 (SS400)
形 状			
フランジ	外側添板	PL-9×150×290 (SS400)	4-M16
	内側添板	PL-9×60×290 (SS400)	
ウェブ		2PL-6×200×170 (SS400)	3-M16

柱脚リスト　S=1:20(A1) S=1:40(A3)



X1通軸組詳細図　S=1:30(A1) S=1:60(A3)

P2・P3

工 事 名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手確保型）（着手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図 面 名	ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(2/2)		
縮 尺	S=1:50	図面番号	10-2
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		

ゲート操作室電気設備配線図

S=1:50

操作室
A42 × 6

外灯
B11 × 1

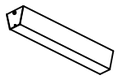
照明器具参考姿図

A30	LED20.6W	3060lm	SUS

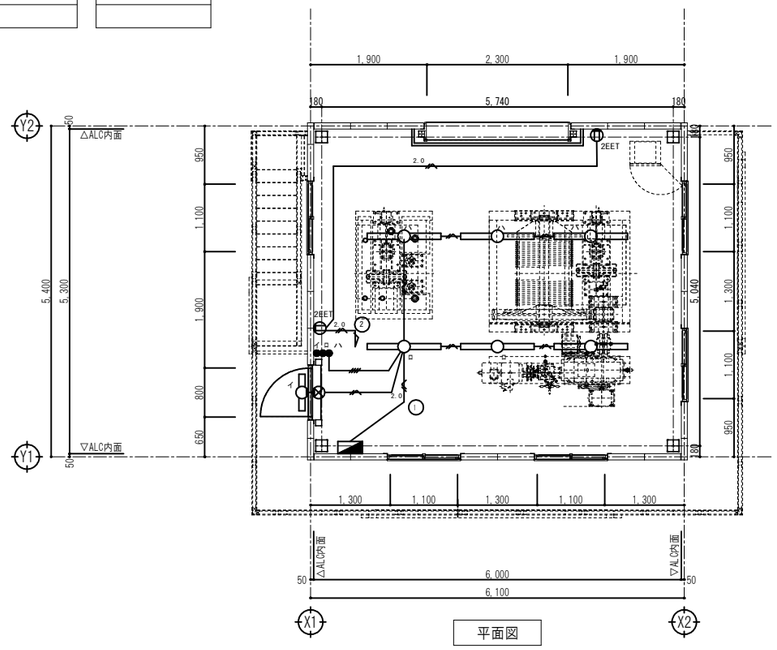
パイプ吊 L=500 ×2

LSS1MP／RP－4－30

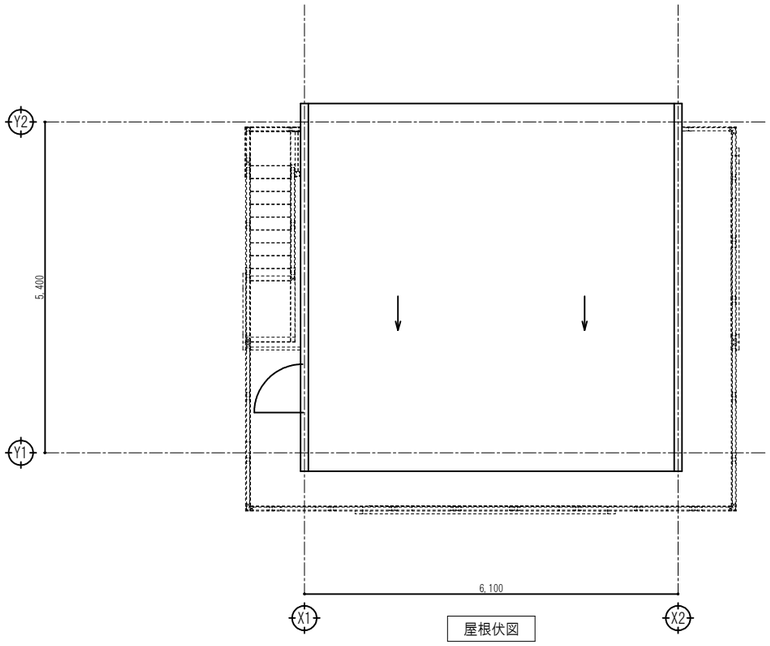
B13	LED14W	1480lm	耐塩仕様



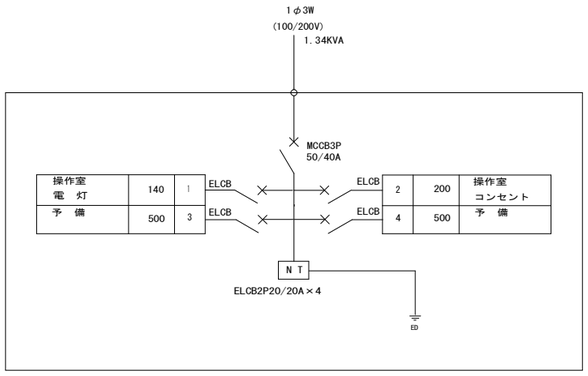
LBF3MP／RP－2－13



平面図



屋根伏図



電灯盤

露出SUS製、指定色塗装

凡 例		
記 号	名 称	備 考
	電灯盤	
	照明器具	姿図参照
	照明器具	姿図参照
2EET	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ × ２ ＥＥＴ付 ステンレスプレート
	埋込スイッチ	１Ｐ１５Ａ × ３ ステンレスプレート
	カバープレート	丸型 SUS

注 記（改修後）		
１．図中特記なき配管配線は下記とする。		
（電灯設備）		
	EM-IE1.6×2(G16)	（露出配管）
	EM-IE1.6×4(G16)	（露出配管）
2.0	EM-IE2.0×2、1.6×１(G16)	（露出配管）
（コンセント設備）		
2.0	EM-IE2.0×2、1.6×1(G16)	（露出配管）

P2・3

工 事 名	R7阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事（担い手建設型）（落手日指定型）		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 宝 田 町		
図 面 名	ゲ ー ト 操 作 室 電 気 設 備 配 線 図		
縮 尺	S=1:50	図面番号	11
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部<阿南>		